二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條　左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一　公証人及嘱託人ノ親屬雇人又ハ公証人ノ筆生

第二　第二十條ニ掲ケタル者

第三十條　証書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一　嘱託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二　嘱託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三　嘱託人後見人ナルトキハ後見人タルノ証書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四　郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五　証書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條　証書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸漆捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條　度量衡貨幣ノ數量、名稱及暦法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、暦法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、暦法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條　証書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公証人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尚ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有セス

第三十四條　証書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公証人並ニ關係人各自署名捺印シ公証人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ

公証人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セ

ス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其証書ハ其公正ノ効ヲ有セス

第三十五條　証書ノ綴目合目ニハ公証人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條　公証人ハ自己及親屬ノ爲メニ証書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條　公証人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ証書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條　公証人ハ自己親屬立會人又ハ証人ノ爲メニ利益アル條件ヲ証書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條　公証人ハ証書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サヽルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條　囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其証書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公証人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條　証書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公証人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條　原本ニハ證劵印税規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

## 第三節　正本及謄本

第四十三條　正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價証劵ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及抄錄正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條　正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒ

タルトキハ其効ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾幷ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條　正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公証人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公証人及他ノ公証人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條　正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條　正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條　數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル証書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄錄シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條　正文又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公証人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第五十條　抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條　証書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ

第五十二條　謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公証人署名捺印ス可シ

第五十三條　抄錄謄本ニハ原本ノ年月日及嗣託人ノ族籍住所職業氏

名ヲ記シ末尾ニ抄錄謄本ト記シ公証人署名捺印ス可シ

第五十四條　管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

## 第三節　見出帳

第五十五條　公証人ハ見出帳ヲ作リ記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條　見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一　嘱託人ノ住所氏名

第二　書類ノ番號種類

第三　書類ヲ取扱ヒタル年月日

## 第四節　兼任及書類ノ授受

第五十七條　公証人死去失踪免職辞職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公証人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公証人ニ命ス可シ

第五十八條　前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキ時其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條　公證人免職辞職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作リ共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作リ共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作リ受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作リ受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其錄目ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條　公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條　兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作リ受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作リ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條　停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條　前任者ノ作リタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作リタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

## 第四章　手數料及旅費日當

第六十四條　公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手數料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條　手數料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條　囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作リタルトキハ草案ノ手數料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手數料ノ半額ヲ受クルコトヲ得



第六十七條　公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其識務ヲ行フ爲メ或ハ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條　兼任者本任者ニ代リテ職務ヲ行フトキハ其手數料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條　手數料ノ外証劵印紙並ニ罫紙ノ代價ハ囑托人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條　囑托人ノ求メアルトキハ手數料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條　手數料等ニ係リ爭ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラス管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

## 第五章　懲罰

第七十二條　公証人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條　左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サヽリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條　左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條　左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時
第三十八條ニ違ヒタル時
第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條　左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
第十五條ニ違ヒタル時
第十六條ニ違ヒタル時
第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條　公証人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條　公証人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公証人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

## ○第二節　仝施行條例

十九年八月司法省令甲第二號

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第一條　公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス
若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ仝ク之ヲ置カサルヿアル可シ

第二條　公證人ハ其受持區內ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ
始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ
司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居ヲ可キ町村ヲ指定ス

第三條　公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條　公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ

役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲ス
ヲ要ス
書類ハ常ニ書箱ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條　公証人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歴書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示アリタルヨリ試驗期日一箇月前マテニ試驗願書ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出ス可シ

第六條　試驗願書及履歴書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ奥書ヲ受ク可シ

第七條　試驗ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス
試驗委員ハ筆記試驗ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ可シ
筆記試驗ニ合格セサル者ニ付テハ口述試驗ヲ行ハス

第八條　試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモノトス
試驗ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條　試驗委員ハ口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス可シ

第十條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員ノ連署シタル及第証書ヲ授與ス可シ

試驗ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試驗及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齡及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條　試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ
始審裁判所ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ
控訴院ニ於テ試驗ヲ行フタルトキハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條　公証人タラント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第証書官記學位記卒業証書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保証スル証書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ
試驗及第証書ヲ要セザル出願人ハ別ニ履歴書ヲ添フ可シ

第十三條　公証人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條　公証人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タル時ハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條　公証人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條　司法大臣公証人ヲ任スル時ハ辭令書ヲ其公証人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公証人名簿ヲ備置キ公証人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齡及任地ヲ記錄ス可シ

第十七條　公証人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債証書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條　公証人ノ納ム可キ身元保証金ノ額ハ左ノ如シ

東京及大阪　金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口貳拾萬以上アル受持區　金四百圓

人口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區　金三百圓

人口拾萬未滿アル受持區　金貳百圓



前項ノ金額ハ人口ニ增減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ增減セス

第十九條　公証人ハ身元保証金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

公証人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保証金ヲ完納セサル時ハ公証人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條　公証人ノ身元保証金ハ公証人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二十一條　過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保証金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタル時ハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保証金ヲ補充ス可キ旨ヲ公証人ニ命ス可シ

公証人保証金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルヿヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公証人保証金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサル時ハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條　公証人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保証金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條　公証人其職務ヲ罷タルトキハ身元保証金ヲ還付ス可シ

第二十四條　公証人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條　公証人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ公証人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條　公証人規則ニ定メタル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　公証人試驗願書式履歴書式及公証人願書式ハ左ノ如シ

第一　公証人試驗願書式

公証人試驗願料紙美濃紙

族籍戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別　氏　名

年　齢

私儀公証人試驗相受度此段奉願候也

年　月　日　現住所　氏　名印

某控訴院長誰殿又ハ某始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齢等相違無之候也

年　月　日　本籍　區長又ハ戸長印

第二　履歴書式

履歴書料紙美濃紙

族籍　氏　名印　年　齢

一　何年何月ヨリ何年何月迄府縣何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業

一　何年何月何々職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件

一　公証人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年　月　日　氏　名印

前書ノ通相違無之候也

年　月　日　　本籍　　區長又ハ戸長印

第三　公証人願書式

公証人願料紙美濃紙

族籍戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別　氏　名　年齢

私儀何府縣何國某治安裁判所管下公証人受持區ニ於テ公証人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第証書（官記學位記卒業証書免許狀）ノ寫及ヒ品行保証書相添此段奉願候也

現住所　氏　名　印

年　月　日

司法大臣誰殿

又

私儀何府縣何國某治安裁判所管下及何府縣何國某治安裁判所管下（某始審裁判所管下又ハ某控訴院管下）ノ内何レノ公証人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公証人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第証書（官記學位記卒業証書免許狀）ノ寫及ヒ品行保証書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ前式ニ同シ

## ○第三節　船舶賣買書入質公証

明治十年三月第二十八號布告ニ人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年（九月）第百四十八號諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定証書ニ本船管轄地戸長ノ公証ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サヽルニ於テハ其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借証書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月十三日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役場ヘ届置クヘシ

## ○第四節　地所質入書入公證

明治十年五月内務省乙第三十三號達本年第六號公布地所質入書入規則第九條改正文中戸長ノ奥書証印ハ戸長又ハ副戸長實印ヲ爲押割印ハ戸長役場印ヲ相用候儀ト可心得此旨相達候事

但シ役場印無之候ハヽ彫刻申付ケ右出來迄ハ戸長實印ヲ換用可致

●長崎縣伺

明治十七年七月十日

建物書入公證之儀ハ明治八年九月第百四拾八號布告第五條ノ通ニ有之候處茲ニ戸長ニ於テ書入證文ニ番號ヲ朱書シ割印ヲ捺シアリト雖奥書無之且圖面ニハ奥書ヲ要セサルモノニ奥書シ番號割印ヲ付セサルノミナラス其繼

目ニ契印モ無ク如是規則ニ背違シタリト雖戸長ノ公證ハ無効ニ屬スヘキ限リニアラスト相心得可然乎

○司法省指令　十七年八月十三日

伺ノ趣書入證文ニ奥書無之ト雖其番號割印判然シ且戸長役場ノ建物書入質記載帳ニ登記有之上ハ無効ト爲スノ限ニアラス

但圖面ニ番號割印及其繼目ニ契印ナキ等ニ因リ異論アル場合ハ格別ノ儀ト心得ヘシ

○三重縣伺　明治十六年十二月廿五日

第一條　客年第六十號ヲ以テ戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公證ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公證猶豫ノ儀申立ル者アルトキハ其裁判ヲ執行シ得ヘキ迄公證ヲ爲スヘカラサル旨公布相成候處裁判々決後明治十年第十九號布告控訴上告手續第四條ニ依リ事理ヲ熟考スル時日即チ七日間ハ其執行ヲ停メ七日經過后ハ第六條ニ依リ始審裁判所ニ控訴ノ届出ヲ爲ス者ヲ除キ其他ハ直チニ執行セラル、順序ニ候哉果ノ然ラハ裁判々決濟ノ確證ヲ以テ被告人ヨリ公證ヲ申出ル迄事理ヲ熟考スル七日間ハ戸長ニ於テ公證ヲ爲スヘカラサル義ニ候哉

第二條　若シ果ノ前條ノ如クナレハ裁判々決後七日ヲ經過シ始審裁判所ニ控訴ノ届出ヲ爲シ若クハ商事ニ係リ急速ヲ要シ七日内ニ控訴ノ届出ヲ爲シ裁判執行ヲ停止シタル確證アル場合ハ戸長ニ於テ公証ヲ與ヘス又該控訴ノ届出ヲ爲サヽル間ハ控訴期限二ケ月以内ト雖モ渾テ公証ヲ與フヘキ義ト心得可然哉

○司法省指令　十七年一月廿九日

伺ノ趣控訴ヲナシタル時ハ終審ノ裁判執行ヲナシ得ル迄公證ヲナサヽルハ勿論控訴ヲ



事

○十一年十一月乙第七十八號達

本年第三十二號公達中左ノ處分方心得ノ爲相達候事

戸長職務ノ概目第五項ニ地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ奥書加印ノ事ト有之右ハ七年當省乙第三十三號達ノ通奥書証印ハ戸長ノ實印ヲ押シ割印ハ戸長役所印ヲ相用ヒ若シ數町村ニ戸長壹員ヲ置クトキハ其役所印ノ冠字ハ戸長管理スル處ノ各町村名ヲ列記スヘシ

○十六年六月乙第二十九號達

戸長印章ノ儀ハ八年第百十號達判任官同樣タルヘキ旨相達置候處布告達ニヨリ實印ヲ押捺スル分モ自今官印ヲ用フヘシ此旨相達候事　十五年十二月

## ○第五節　公證ノ猶豫

戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公証ヲ爲スヘキ際該物件又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公証猶豫ノ儀申立ツル者アルトキハ其裁判ヲ執行シ得ヘキ迄公証ヲ爲スヘカラス

第六十號布告

○十七年三月第五號布達

明治十五年(十二月)第六十號布告ハ勸解又ハ刑事告訴中ナルヲ以テ公証猶豫申立ル者アル場合ニモ適用スヘキモノトス

## ○第六節　戸長所有地所建物船舶等公証

十八年三月内務省甲第六號達

戸長所有之地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスルトキハ其次席ノモノ次席ノモノ無之トキハ隣町村戸長ヲシテ公證爲取扱來候處自今戸長ニ於テ成規ノ公証ヲナシ郡區長戸長役場ヲ兼ヌル區役所ハ府知事縣令之檢閲ヲ爲受候樣可致此旨相達候事

但シ檢閲之証トメ公證帳簿ト證書トニ郡區役所之割印ヲナスヘシ

ナサヽル時ト雖ドモ控訴上告手續第五條控訴期限内ハ公証ヲ猶豫スヘキ儀ト心得ヘシ
但裁判所ノ裁判執行命令書ヲ証ト爲シ公証ヲ請求スル時ハ本文ノ限ニアラス

明治三年正月民部省布告

◉島根縣伺

明治十七年六月六日

米穀借用証文ハ証券印税規則第一類相當印紙ヲ貼用スヘキ哉

○大藏省指令

十七年六月十七日

新税則實施後ハ金高記載ナケレハ第一類記載アレハ第二類相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ儀ト心得ヘシ

五年百二十三號布告

當幕旗下元知行所郷印證文貸附金銀取立ノ儀追テ及沙汰迄金主借主相對濟方致スヘシ

# 第八類 〔貸借利息〕

## ◉第一章 貸借

### ○第一節 動産不動産書入金穀貸借規則 明治八年六月第三百六號布告

一動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動産不動産流亡又ハ燒失ヲ爲ストモ負債ハ身代限濟方可申付事

一動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動産不動産ノ相場高下アリテ糶賣ノ價ヒ負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ其餘分ハ借主ヘ與フヘシ若シ其價ヒ負債ヨリ不足ナレハ身代限濟方可申付事

一壬申第三百號布告以前家祿ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シタル分ハ家祿ヲ除キ外物品ヲ以テ身代限濟方可申付事

### ○第二節 金穀貸借請人証人辨償規則 八年六月第百二號布告

第一條 金銀借用返濟相滯リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人証人ヘ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人証人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハヽ借主並ニ請人証人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人証人ヘ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハヽ請人証人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代ヲ持直シ次第皆濟可致事

第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ雛形之通裁判所ニ於テ其ノ原証文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事

裏書雛形

第一條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滯ルニ付借主何ノ誰身代限申付ル處不足相立請人証人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ借主何ノ誰請人証人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日 某裁判所印

第二條ノ節書式

明治四年正月十八日布告

貸金銀利足ノ儀是迄定制有之處自今貸借雙方ノ者相對示談ノ上利足取極メ貸金證文ヘ急度書載取引致スヘシ

六年四十號布告ヲ以テ改ム

七年司法省二十三號布告ヲ以テ明治五年十一月廿七日司法省布達四十號身代限ノ申ヲ受ル者ヨリ余人ヘ貸付置ク證文有之節ノ處分ヲ定ム

十年六月七日布告十六號
明治六年二月七日布告四十號
辛未正月十八日貸金銀利足ノ布告ヲ改ム
布告ヲ以テ消ル

明治年三月七日布告九十二號
十六年十六號
金穀貸附證文中ニ相當ノ利息又ハ利息トノミ記載セシ者ハ今後金高一ケ年ニ付利息百分ノ六ニ定メ裁判スヘシ
布告ヲ以テ消ル

表書ノ元利金何百何拾圓借主何之誰逃亡死亡跡相續人無之ニ付請人證人何ノ誰ヘ身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ請人證人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日　　某裁判所印

○明治八年第百二十一號布告

本年(六月)第百二號金穀貸借請人証人辨償規則本文中施行ノ文字ヲ刪リ且條條ノ下ニ同日以後借用証書ヘ加印候者ハ改正ノ通可相心得ノ廿二字ヲ加ヘ候事

但右規則第二條ノ節書式文中失踪ノ二字逃亡ト改正候事

## ○第三節　無期限金穀貸付

六年一月十號布告

金穀貸付証文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ証書取置後日訴出ルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二ケ月ノ内濟方可申付事

但從前今後共無年期貸付中内証屢々返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸賃ハ不動產ニ屬スル儀ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

## ○第四節　連借

八年四月第六十三號布告

八年百二號布告ヲ以テ消ル
明治六年六月八日布告百九十五號請人證人辨償規則ヲ定ム

明治九年十一月廿二日司法省達八十六號
十年六十六號布告ヲ以テ消ル

金穀其他借用証書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキモノ等有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ヘ償却可申付候條此旨布告候事

但右証書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明証アルハ此限ニアラス

○明治十三年二月司法省丁第三號達

大審院
諸裁判所

連借証書處分ノ儀ニ付甲號ノ通熊谷裁判所ヨリ伺出候間乙號ノ通内訓及ヒ候條爲心得此旨相達候事

甲號

熊谷裁判所伺　明治十三年一月二十日

甲乙丙ト連借証書ノ内甲ハ東京乙ハ長崎丙ハ箱館等各所在ヲ異ニセル者アリ右ハ明治八年第六十三號公布ニ照セハ失踪死亡等ノ事故アルニ非レハ債主之レヲ訟求セントスルニハ斯所在ヲ異ニセル者ト雖モ其負債者一同ヘ對シ訟求セサルヲ得サルモノヽ如シ若果シテ然リ

十一號
本年達第八十號達文中正誤
十年四十三號布告ヲ以テ消ル
明治九年十二月廿三日教部省達四十號各寺院ニ於テ其所有物ヲ抵當ニシテ借財スル件ハ必ス法類檀家等二人以上ノ承認ヲ受ケシム

トセハ連借証書ニシテ別段ノ約定之レ無キ分ハ何レモ保証人ノ義務ト敢テ別ナキモノニ似タリ然レ𪜈右ハ明治十年六月仙臺裁判所伺御指令(民事部第廿號十一葉見合)ノ意ヲ推考スレハ債主ノ撰ム所ニヨリ其一名又ハ二名ヘ對シ全部ノ請求ヲ爲スモ亦妨ケナシト雖𪜈現ニ被告セラレタル一名又ハ二名ニ於テ他ノ連借者ノ召喚ヲ乞フ場合ニ在テハ又召喚セサルヲ得サルモノヽ如シ然ルニ是等一々召喚セシ上ニ非レハ審理判決スルヲ得サルモノトセハ裁判上頗ル不便ヲ生シ徒ラニ夥多ノ年月ヲ費スノミナラス債主ノ損害モ亦尠ナカラス畢竟分借ノ員數ヲ明記セサル連借者ハ素ヨリ保証人ノ義務トハ全ク其生質ヲ異ニスレハ各自ニ其全額ヲ負擔スヘキ義務ナシトモ亦謂フ可カラス左スレハ債主ニ於テ右連借人ノ内現在スル一名又ハ二名ヲ相手取出訴セシ𪜈被告ニ於テ他ノ連借者ノ召喚ヲ求ムル際裁判官ニ於テ其求メニ應シ連借者ヲ召喚スルモ無益ノ時日ヲ經過スルノミニテ現在ノ被告ニ全額返辨セシムルモ不都合之レ無キモノト思料スル𪜈ハ直チニ其全額ヲ償却セシメ可然義ト存候得共右ハ前顯第六十三號ノ公布ニ抵觸スルノ疑議有之候間一應奉伺候至急仰内訓候也

乙號

六年十八號布告以テ消ル
明治五年四月十四日布告百廿四號國内一般地所ノ儀銘々所持ノ分タリ共外國人ヘ對シ賣渡ハ勿論金銀取引ノ爲メ地所又ハ地券等書入ニスルヲ禁ス

内訓　明治十三年二月九日

連借証書處分ノ義ニ付伺ノ趣明治八年第六十三號公布ノ主旨ハ借用証書中數名連印各自分借ノ員數ヲ記セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人無キ者等有之𪜈ニ限リ現在セル數名ノ者ヘ償却可申付義ナレハ獨リ一名又ハ二名而已ニ對シ全額ヲ訟求スルヿヲ得ス必ス訴答文例第八章第廿五條ニ照準スベシ

但仙臺裁判所ヘノ指令第二條ハ援引不相成候事

## ○第五節　外國人ヘ對スル家屋地所ノ貸渡　七年八月八日十五號布告

外國人ヘ家屋地所等貸渡シノ節約束上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響候條自今學校其他ノタメ雇入レ居留地外ヘ住居スヘキ外國人及ヒ公使館附屬書記官等ヘ貸家貸地ノ節ハ先ツ約定草案相添ヘ其管轄廳ヘ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事

但建物取毀賣捌ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳ヘ可届出事

# 第二章　利息

## ○第一節　利息制限　十年九月第六十六號布告

第一條　凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利足トス

第二條　契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(壹割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニ迄引直サシムヘシ

第三條　法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ハラス百分ノ(六分)トス

第四條　第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金捧利等ノ名目ヲ用ル者アルトキハ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條　返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキヿヲ約定スルヿアルトキハ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スヿヲ得

## ○第二節　利息制限外ノ質入ニ係ル公証

十三年七月司法省丁第十三號達

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達(明治十三年六月廿三日)

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及説明置候處今般閣裁ヲ經テ左ノ通熊本縣ニ及回答候條爲心得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣ヘ回答

戸長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルノミニシテ利息ノ制限ニ超ユルト否トニ關セサルモノトス

沿革改廢索引

伺指令及請訓內訓

●埼玉縣伺 明治十八年四月廿七日

今般第七號御布告專賣特許條例及第五號御布達專賣特許手續條項中疑義ノ廉左ニ一條例第五條中ニ又ハ廣ク用ヰシムルコトヲ必用ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス云々ト有之右ハ軍用品ノミニ限ラス諸般ノ物

# 第三編　商事

## 〔專賣商標〕

### 第一類　專賣

#### ●第一章　專賣特許條例　十八年四月第七號布告

○第一節

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣略規則及明治五年(三月)第百五號布告ハ廢止ス

第一條　有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クベシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許証ヲ下付スヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書幷必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條　專賣特許ノ年限ハ專賣特許証ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超

件ニシテ社會公益ノ最モ大ナル者ト公認セラルヽモ惟リ發明者ニ專賣權ヲ附與スルトハ却テ之カ擴充ヲ妨クルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ發明者ニハ相當ノ報酬金ヲ與ヘラレ而メ該發明品ハ何人ヲ問ハス製造販賣勝手タラシムヘキ御仕向ニ候哉

二同第八條但書ニ追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得スアルハ譬ヘハ某物件ニ改良ヲ加ヘテ追加專賣特許ヲ願出ル時ハ其追加特許証ノ日附ケヨリ起算シテ更ニ向フ何年(原特許五年ナレハ追加特許モ五年同十年十五年ナレハ追加モ又十年十五年)ノ特許ヲ受ケ得ラル、義ニ候哉又ハ當初十五年ノ特許ヲ得テ既ニ

ユルコトヲ得ス

第四條　左ノ諸項ニ觸ルヽモノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

一他人ノ既ニ發明シタルモノ

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四醫藥

第五條　軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條　專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ケ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條　專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條　專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條　專賣人ハ其發明品ニ專賣特許証ノ年月日及ヒ年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條　專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條　專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ケ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

十年ヲ經過セシ後改良ヲ加ヘ追加ヲ願出ルトキハ殘リ五年丈ケノ特許ニシテ其以上ヲ超ユルコトヲ得サルノ意ニ候哉

三同第十五條其二項ニ專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣云々トアルハ譬ヘハ何某ノ發明ヲ以テ專賣特許ヲ得タル物品ト同一ノ物品外國ニ發明者アリテ齊シク其政府ノ專賣特許ヲ得テ本邦ニ齎シ來リテ之ヲ販賣スル者アルトキハ右何某ノ專賣權ハヲノツカヲ消滅ストノ意ニ候哉又ハ專賣特許ヲ得シ發明品ヲ自カラ外國ニ遣リテ製造セシメ之ヲ輸入シテ販賣セシコトノ發覺シタル時專賣ノ權ヲ剝奪セラルヽトノ意ニ有之候哉

四同第二十條ニ

第十三條　專賣特許証ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許証ヲ返納セシムヘシ

一第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二願書幷明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

一專賣特許証ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ屆出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條　專賣特許証ヲ下付シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條　專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

一五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金拾圓

二十年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金拾五圓

三　十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金貳拾圓

四　讓與分與ヲ願出ル者　金五圓

五　追加特許ヲ願出ル者　金五圓

六　專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者　金壹圓

第十八條　專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

第十九條　專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ幷要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サヽルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト仝一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十二條　第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣

専賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ窃用シタル者ハ云々ト有之右發明品ヲ僞造ストハ他人ノ專賣特許ヲ得タル發明品ヲ摸造シテ之ニ發明者ノ姓名及ヒ特許ノ年月日年限等ヲ標記シタルモノヽ謂ヒニシテ外國ヨリ輸入スト他人ノ專賣特許ヲ受ケタル發明品ヲ窃カニ外國ニ遣リテ造ラシメ之ヲ輸入販賣シ或ハ其輸入品ヲ摸範トシテ製造販賣シ一方ヨリ專賣權ヲ侵サレタリトシテ告訴スルモノアルモ外國品摸造ノ口實ヲ以テスルカ如キ故意ノ者ヲ指ス義ニ候哉將タ方法ヲ窃用ストハ例ヘハ專賣特許ヲ得タル發明品圓形ナレハ方形ニシタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條　第六條第二項第十二條ノ屆出ヲ其期限內ニ爲サヽル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條　專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣寄規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年(三月)第百五號布告但書ニ依リ屆出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

十八年四月第五號布達

## ○第二節　專賣特許手續

第一條　專賣特許ニ關スル願書及屆書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書二通明細書幷圖面各三通ニ免許料ヲ添フヘシ

二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ

第三條　明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第四條　專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

シ木製ナレハ鐵製ニシテ形容ヲ殊ニスルヤテニテ其實右發明者ノ考按意匠ヲ全用シタル者ヲ指ス義ニ有之候哉

五同第二十四條ニ詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ云々ト有之右詐僞ノ所爲云々トハ條例第二十條ノ事項ト類似ノ故意騙瞞ヲ以テ既ニ特許ヲ受タルモノヽ謂ヒニシテ僞稱云々トハ專賣特許ヲ得スシテ特許ノ名ヲ密用スルヲ指ス義ニ有之候哉

六手續第十三條ニ專賣特許ヲ受タルモノヽ約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシトアルハ專賣權ヲ有スルモノ自已ノ都合ニ依リ讓與分與ノ手續

二 專賣特許ノ年限
三 條例ニ抵觸セサル旨
四 願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨

第五條 明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
一 發明ノ目的及性質ノ大體說明
二 圖面ノ解說(圖面ヲ添フルトキハ)
三 發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ說明
四 發明ノ區域
五 發明人ノ族籍住所氏名

第六條 圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ說明ト符合セシムヘシ

第七條 條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ願書二通ニ專賣特許證、約定書寫、及免許料ヲ添フヘシ

第八條 條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ

第九條 條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ

第十條 條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ屆出ヲ爲トキハ農商務省ニ於テ專賣特許証ニ裏書ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第十三條ニ依リ專賣特許証ノ再度ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ

第十二條 專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脫漏又ハ過誤アルヿヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セントスルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルヿヲ得ス

第十三條 專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシ

第十四條 條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條 附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル者ハ其來歷ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ

## 〇第三節 專賣免許料收納手續

明治十八年六月農商務省第貳拾貳號達

二依ヲス特許年限中若干年間若クハ全期他人ヲシテ之ヲ製造及販賣セシムルコトヲ爲シ得ラルヽトノ意ニ有之候哉

●農商務省指令十八年五月二日

伺之趣左ノ通可相心得事

一見解ノ通後段見解ノ通

二専賣人自ラ輸入シテ販賣スル場合ヲ指スモノトス

三前二段見解ノ通後段ハ専賣特許ヲ得タル製造方法ノ如キ工術ヲ窃用シタルモノヲ指スモノトス

四見解ノ通

五見解ノ通

六見解ノ通

●農商務省伺

明治十八年五月十四日

此般専賣特許條例ノ發布アルヤ今後益殖産興業ノ通可相心得此旨相達候事

今般第七號專賣特許條例公布相成候ニ就テハ專賣免許料收納手續左

專賣免許料收納手續

一專賣特許條例第十七條免許料ハ出願者ニ於テ明治十七年大藏省第四拾壹號達國税金收納順序ニ依リ第貳號ノ切符ヲ以テ郡區長ニ納メ郡區長之ヲ預リ置其旨收税長ニ報道シ追テ特許証若クハ指令願書到達ノ上成規ノ手續ヲ以テ全省ニ納附スヘシ

但免許料ヲ返付スヘキ場合ニ於テハ全年大藏省第四拾貳號達ニ依ルヘシ

一右免許料ハ特許証若クハ指令願書ノ日附（讓與分與ハ特許證書ノ日附）ヲ以テ年度ヲ區分スヘシ

一收納セシ免許料ハ半ケ年ツヽ區分シ別紙雛形ノ通明細表調製シ十月十五日限リ農商務省ヘ差出スヘシ

但十八年度ハ半ケ年ツヽニ區分セス四月十五日限リ差出スヘシ

明治何年四月ヨリ九月マテ十月ヨリ三月マテ專賣免許料明細表

何府縣何區郡何町村何番地

氏名

全上

氏名

| 年月日發明使用追加讓與分與再渡 | 免許料 |
|---|---|
| 何年何月何日 十五年一個 | 貳拾圓 |
| 何年何月何日 五年一個 | 拾圓 |
| 何年何月何日 | 五圓 |
| 計 一個 一個 一個 一個 | 三十五圓 |

| 年月日發明使用追加讓與分與再渡 | 免許料 |
|---|---|
| 何年何月何日 | 五圓 |
| 何年何月何日 一個 | 拾五圓 |
| 何年何月何日 五年一個 | 拾圓 |
| 何年何月何日 | 壹圓 |
| 何年何月何日 | 五圓 |

ノ道ヲ隆旺ニシ人民ヲシテ無盡ノ幸福ヲ得セシメントノ盛意ナルヲ以テ各自進ンテ其技ヲ研キ其業ヲ脩メ新奇有益ノ事物ヲ發明シ相共ニ社會ノ利益ヲ謀ルヘキハ固ヨリ喋々ヲ俟タス然リ而シテ官設諸工場ニ於テ有益ノ事物ヲ發明スルアルモ之ニ專賣權ヲ附與スルヨリ寧之ヲ與ヘサルノ愈レルニ若カサルヘシ何トナレハ原來該工場等ノ如キハ世間工業者ノ摸範ニシテ學術ヲ闡明ニシ人智ヲ煥發シ其技術ノ進歩ヲ促スヲ主トシ販賣享利ノ爲メニ設立セルモノニ非ラサルヲ以テ若シ官民一致ニ措置シ之レニ專賣權ヲ與フル如キハ啻ニ該場設置ノ要旨ニ悖レルノミナラス爲メニ人民發明ノ事物ヲシテ自ラ其區域ヲ狹隘ナラシムルノ恐レアリ故ニ該工場等ニ於テ發明セル事物ハ總テ之ニ專賣權ヲ附與セスシテ廣ク人民ノ取用ニ任セ普ク社會ノ便益ニ供フル方可然左スレハ官民ノ別爰ニ明ニ人民發明保護ノ特ニ厚キヲ表シ勸業ノ實効ヲ呈シ可申存候此段仰高裁候也

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | | 一個 | 三十六圓 | | | |
| 總計 | 二個 | 二個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 七拾壹圓 | | | |

右之通候也

年月日　　農商務卿某殿　　長官氏名印

○太政官指令　十八年六月二十七日

上申ノ通

●愛媛縣伺　明治十八年十二月十日

甲者已ニ專賣ノ特許ヲ得タル發明品ニシテ乙者之ヲ摸造シ已レ一人ノ使用ニ供シ候儀ハ法律上ニ於テ差支無之候哉又ハ假令一己ノ用ニ供スルモ之ヲ摸造スル時ハ專賣條例第二十條專賣特許ノ發明品ヲ僞造シタル廉ニ依リ處斷可相成儀ニ候哉

○農商務省　指令　十八年十一月二十五日

伺之趣後段見解之通可相心得事

## ○第四節　免許料手數料鑛山借區稅取扱順序

明治十九年五月訓令農商務省第五號

當省所管免許料手數料鑛山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス　但從前諸達ノ內此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス

免許料手數料鑛山借區稅取扱順序

第一條　免許料手數料鑛山借區稅ハ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス但取扱順序ハ明治十九年三月大藏省令第四號歲入取扱順序ニ據ル

第二條　各年度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

第三條　前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ歲入取扱順序第十七號乙書

式ニ據リ月額豫算表ヲ調製シ七日以内ニ之ヲ當省ヘ差出スヘシ

第四條　收入金年度編入方ハ明治十七年十二月大藏省第九十號達ニ據ル

第五條　報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

歲入報告書　翌月五日

會計年度內徵收未濟報告書　翌年度四月五日

出納閉鎖前不納報告書　翌年度十二月十日

△ハ朱書

（書式）

（用紙美濃十三行罫紙每欵別冊袋綴トシテ綴目ニ契印スヘシ）

年號何年度

免許及手數料收入（雜收入）豫算明細書

但紙數何枚（表紙ヲ除ク）

北海道廳（府縣名）

△標準額金

△前年度豫算額金

（前々年度以前三箇年度實收平均額）

一金　免許及手數料

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ニ由ル（增減ヲ生スル事由ノ大要ヲ記載スヘシ）

前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ニ由ル（同上）

內譯

△標準額金

△前年度豫算額金

金　免許料

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（增減ヲ生スル事由ヲ詳記スヘシ）

前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（同上）

內

△標準額金

△前年度豫算額金

金　米商會所仲買人認許料

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（增減

ヲ生スル事由ヲ詳記スヘシ）
前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（上同）

△標準額金
△前年度豫算額金
金

株式取引所仲買人認許料

但（上同）
△標準額金
△前年度豫算額金
金

專賣免許料

但（上同）
△標準額金
△前年度豫算額金
金

## 手數料

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（增減ヲ生スル事由ヲ詳記ズヘシ）
前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（上同）

內

△標準額金
△前年度豫算額金
金

商標登錄手數料

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（增減ヲ生スル事由ヲ詳記スヘシ）
前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ事故ニ由ル（上同）

△標準額金
△前年度豫算額金
金

獸醫免狀手數料

但（上同）
（雜收入之ニ準ス）

右ハ年號何年度免許及手數料收入（雜收入）豫算書面ノ通有之候也

年號年月日

北海道廳（府）（縣）長官名印

農商務大臣宛

## 收入科目表

| 款 | 項 | 目 |
|---|---|---|
| 免許及手數料 | 免許料 | 株式取引所仲買人認許料 |
| | | 專賣免許料 |
| | 手數料 | 商標登錄手數料 |
| | | 米商會所仲買人認許料 |
| | | 獸醫免狀手數料 |
| 雜收入 | 鑛山借區稅 | 有鑛質坑區稅 |
| | | 無鑛質坑區稅 |
| | | 鐵坑區稅 |



## ○第五節　專賣特許願書式及明細書文例

明治十八年四月農商務省第六號告示

專賣特許條例本年第七號ヲ以テ布告相成候ニ付右ニ關スル諸願書式及明細書文例左ノ通相定候條此旨告示候事

願書式　用紙美濃紙其上部曲尺一寸程下部八分程綴シロ壹寸五分程ヲ餘白ト爲シ字體明瞭ニ認ムルヲ要ス

第一（一箇ノ發明者又ハ協同發明者又ハ他人ノ發明ヲ讓受ケタル者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ）

專賣特許願

一　何發明

右ハ私（私共ノ）（何誰儀發明者何誰ヨリ讓受候）發明ニシテ從來世上ニ使用セラレサル（機械）（物品）（方法）ナルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實並圖面（圖面ヲ添フルトキ）ニ相違之廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許証御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地居住寄留

年　月　日

族籍
業名　氏　名　印
又發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
同
同　氏　名　印
又他人ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
同
讓受人　氏　名　印



前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何府縣知事令　某　印

農商務卿某殿

第二（相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ）

專賣特許願

一　何發明

右ハ私亡父（亡兄）何誰發明ニ候處何年何月何日死去致候ニ付今般家名相續ノ廉ヲ以テ私受繼候右（機械）（物品）（方法）ノ從來世上ニ使用セラレサルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實幷圖面（圖面ヲ添フルトキ）ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許証御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

故何之誰相續人
何府縣地名番地（居住寄留）
族籍
業名　氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何府縣知事令　某　印

第三（追加專賣特許ヲ願出ルトキ）

追加專賣特許願

私(私共)所持罷在候何年何月何日付第何號專賣特許証ニ係ル發明ニ就キ今般改良ヲ加ヘ候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實幷圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間追加專賣特許証御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

年　月　日

何府縣地名番地居住寄留
族籍
業名
發明者　氏　名　印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何府縣知事令　某　印

第四(讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ)

專賣權讓分與願

一何年何月何日付第何號專賣特許証
一何發明

一發明者何之誰
一現所有主何之誰
右ハ今般別紙約定書寫之通何之誰ヘ讓與(分與)致度依テ前記ノ專賣特許証並御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地居住寄留
族籍
業名
讓分與人　氏　名　印
肩書前同斷
讓分受人　氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府縣知事令　某　印

第五

專賣特許証紛失燒失流失ニ付再渡願

一何年何月何日付第何號專賣特許証
一何發明

一　發明者何之誰

右專賣特許証ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ紛失（火災ニ罹リ燒失）（水難ニ遭ヒ流失）候ニ付再渡相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地（居住寄留）
族籍
業名

年月日　專賣特許証所有者　氏名　印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日　何府縣知事令　某　印

第六（專賣特許願書明細書又ハ圖面ニ遺漏又ハ誤謬アルトキ其補足又ハ改正ヲ願出ルトキ）

專賣特許願（發明明細書圖面）脫漏補足（誤謬改正）願

一　何年何月何日付第何號專賣特許証

一　何發明

一　發明者何之誰

一　現所有主何之誰

右專賣特許証ニ係ル願書（明細書圖面）中何々ノ遺漏（誤謬）有之候ニ付別紙之通補足（改正）致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スル儀無之ト確信候間此段奉願候也

何府縣地名番地（居住寄留）
族籍
業名

年月日　發明者（發明讓受人（發明人死去セシトキ）又發明者存生ノトキハ左ノ如シ）　氏名　印

肩書前同斷

發明者　氏名　印

同

現所有主　氏名　印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日　何府縣知事令　某　印

第七（專賣特許條例附則第一項ニ依リ專賣特許ヲ願出ルトキ）

專賣特許願

一　何發明

右ハ私(私共)明治何年何月何日發明致シ明治何年何月何日ヨリ使用致來候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及ヒ別封明細書ニ記載セル事實幷圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許書御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

年　月　日

何府縣地名番地居住寄留
族籍
業名
發明者　氏　名　印
又發明者二人ナルトキハ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
同
同　氏　名　印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

第八(專賣特許條例附則第二項ニヨリ使用ノ特許ヲ願出ルトキ)

年　月　日

何府縣知事令　某　印

一　何發明

右ハ何之誰發明ノ(機械)(物品)(方法)ニシテ私儀營業ノ爲メ明治何年何月何日ヨリ之ヲ使用シ來候處今般右發明人何誰專賣權ヲ受候ニ付テハ何箇年ヲ期限トシ右發明使用ノ儀御許可相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地居住寄留
族籍
業名
氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府縣知事令　某　印

第一(方法ノ發明ヲ記載スルトキ)

年　月　日

明細書文例(用紙美濃紙共上部曲尺一寸程下部八分程綴シロ一寸五分程ヲ餘白ト爲シ楷書若クハ行書ニテ明瞭ニ記載スルヲ要ス)

## 明細書

### 煤氣精製ノ改良法

煤氣ヲ精製スルニ當リ其容積ヲ著シク減少セスシテ其照力ヲ增進スルヲ得ヘキ新奇有益ノ改良法ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス

從來煤氣ヲ精製スルノ方法ハ煤氣ヲシテ獸炭中ヲ通過セシムルニアリト雖モ單ニ獸炭ノミヲ使用スルトキハ暫時ヲ經ルノ後汚物ヲ吸收スルノ力ヲ耗失スルカ故ニ蒸氣若クハ水ヲ以テ獸炭ヲ洗浣スルカ或ハ煤氣ト共ニ大氣ヲ通過スルカ然ラスンハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再調セサルヘカラス而シテ單ニ獸炭ノミヲ使用スルトキハ啻ニ煤氣ノ照力ヲ減殺スルノミナラス其容積ヲモ亦減少スルノ憂ヲ免レス此改良法ノ目的ハ煤氣ノ照力ヲ減殺セス其容積ヲモ亦著シク減少セスシテ其操作法ニ間斷ナク且ツ煤氣ヲ充分ニ精製スルニアリ即チ其法ハ煤氣中ノ汚物ヲ除去スル力ヲ增加スレトモ該氣中ノ照氣ヲ吸收セサル物體ヲ獸炭ニ混合シ大氣ト共ニ煤氣ヲシテ之ヲ通過セシムル者トス

此發明ヲ實施スルニハ石炭「タール」若クハ該油ト水或ハ單ニ水ノミヲ以テ獸炭(新製ノモノ又ハ使用セシモノニテモ可ナリ)ヲ浸潤シ之ヲ一器或ハ數器內ニ充塡シ以テ之ヲ精製器トス若シ浸潤スルニ單ニ水ノミヲ以テセサルトキハ獸炭ヲ乾燥シテ充塡スルモ亦可ナリ而シテ煤氣ヲ該精製器內ニ通過セシムルニ當リ蒸溜器若クハ本管ヨリ小量ノ大氣ヲ導入シ例ヘハ精製スル煤氣ノ容積一百分ニ付十分ノ八乃至二ト二分ノ一ノ比例ヲ以テ之ヲ煤氣ニ混合セシメ然ル後煤氣ヲ該器內ニ通過セシムルモノトス但シ大氣ノ量ハ煤氣中ニ於ケル汚物ノ多少ニ關係ス若シ大氣ヲシテ煤氣ト善ク混合セシメント欲セハ蒸溜器ト精製器ノ間ニ於ケル本管ノ一局部又ハ精製器ニ密接シタル處ニ於テ適宜ノ混合機ヲ裝置スヘシ水瓦斯ヲ精製スルノ際ニモ亦大氣ヲ該瓦斯中ニ導入スルトキハ單ニ水ノミヲ以テ浸潤セル獸炭ニテ可ナリ

此法ニ據レハ大氣中酸素ノ一部ハ硫素ト抱合シ終ニ可溶鹽類ヲ生シ其殘餘ハ全ク硫化水素及其他ノ含水素硫素複体ノ水素ト抱合シテ水ヲ生シ更ニ遊離酸素ヲ殘留セス硫化水素及其他ノ硫素複體中ニ於ケル硫素ノ一部ハ遊離狀トナリテ獸炭中ニ沈澱シ窒素ノ一部ハ殘餘ノ水素ト抱合シ終ニ「アムモニヤ」鹽類ヲ生ス若シ窒素ハ精製シタル煤氣ト共ニ通過シ去ルコトアルモ甚タ僅少ナルヲ以テ更

ニ害アルヿナシ

此ノ如ク大氣ヲ使用スルトキハ獸炭久シク其作用ヲ保存スルヲ以テ該操作法ハ常ニ間斷ナク施行スルヲ得ヘシ

最後ニ獸炭ノ吸收力ヲ失スルニ至リタルトキハ其有用ナル「アムモニヤ」鹽類ヲ含有スルヲ以テ之ヲ賣却スヘシ然ラスンハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再調シ或ハ水ヲ以テ之ヲ洗浣シ而シテ適宜ノ溶劑ヲ以テ硫素ヲ分離シ再ヒ之ヲ使用スヘシ

石炭「タール」ヲ獸炭ニ混合スルニ因リ其煤氣中ノ生油氣及其他ノ照性重炭化水素ヲ吸收スルヿナシ

獸炭ヲ精製器ニ充塡スルノ前若クハ後ニ於テ獸炭ヲ處理スルニ煤氣中ノ照氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體卽チ該炭ニ交和シテ照氣ヲ吸收セシメサル所ノモノヲ以テスルヲ得ヘシ特ニ石炭「タール」ヲ揭ケシ所以ハ其最モ得易キヲ以テナリ但シ該油中ノ炭化水素溜液卽チ「ベンゾール」屬ノモノヲ使用スルモ亦可ナリ

石炭煤氣ノ塲合ニ於テハ前記ノ如ク獸炭ハ該氣中ノ硫化水素ヲ吸收ス但シ乾燥ナル獸炭中ニ煤氣ヲ通過セシムルトキハ多少其照力ヲ減殺スヘシ然レトモ大氣ヲ使用シ且ツ石炭「タール」ヲ以テ獸炭ヲ浸潤スルトキハ却テ之ヲ增進ス是レ此ノ如クシタル煤氣ノ照力ハ獸炭ヲ通過セサルトキト同一ナレトモ通過セサルモノニ比スレハ尙ホ一層白焰ヲ生スルヲ以テナリ

此法ニ據ルトキハ硫素ト水素ハ相分離シ硫素ハ獸炭中ニ殘留シ水素ハ煤氣ト共ニ通過シ炭素氣モ亦全ク通過スルヲ以テ煤氣精製ノ前後ニ於テ實際其容積ニ差異ヲ生セス

此改良法ノ大ニ便宜トスルハ煤氣ヲシテ凝縮器ヨリ直接ニ新發明ノ精製器內ニ通過セシムルヲ得從テ擦挿法ト精製法トヲ結合セシムルヲ得ルニアリ

硫化水素ヲ除却スルニハ之ヲ煤氣中ニ於テ分解スヘキ酸化鐵、錫鑛、「マンガニース」鑛ノ如キ物體ヲ獸炭ニ混合スルモ亦可ナリ

此精製器ヲ以テ精製セル煤氣ハ更ニ「アンモニヤ」及硫素ヲ含マス殆ント無臭ナリ

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ左ノ二條トス

第一　已ニ陳述セシ如ク獸炭ノ方便ニ依リ煤氣ヲ精製スルニ當リ關係アル適宜ノ物體ヲ獸炭ニ混合スルノ法是ナリ

其煤氣中ノ照氣ヲ吸收スルヲ豫防スルノ方法卽チ照氣ト相互ノ

第二　煤氣ヲシテ大氣ト共ニ石炭「タール」ヲ以テ浸潤セル獸炭中ヲ通過セシムルノ法是ナリ

右之通相違無之候也

年　月　日

何府縣地名番地住居寄留
族籍
業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
讓受人　氏　名　印

農商務卿某殿

第二（組成劑ノ發明ヲ記載スルトキ）　明細書

脫毛媒助劑

毛皮ヲ媒化スルニ當リ豫メ其毛及脂肪ヲ脫除シ易カラシムルカ爲ニ使用スヘキ新規有益此組成劑ハ淸水、石炭、曹達、及ヒ花狀硫黃ヨリ成ル即チ其割合ヲ揭クルヿ左ノ如シ

淸水　一二五、〇斗
生石炭　八、〇貫
曹達　一二、〇
硝石　二、四
花狀硫黃　一、二

以上ノ成分ヲ攪擾シテ善ク之ヲ混和セシムルモノトス

此組成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮裡ニ含有スル鹽類及汚物ヲ脫除シ之ヲ淸淨ニシタル後此液劑中ニ浸スヿ四十八時間ニシテ之ヲ取出シ通法ヲ以テ其毛ヲ脫除スルモノトス

此組成劑ヲ使用スルトキハ啻ニ其毛ヲ脱除シ易カラシムルノミナラス毛皮ヲ韋化スルニ當リ妨碍ヲ來タスヘキ脂肪及其他ノ物質ヲ脱除スレトモ精良ノ柔革ニ變成スヘキ質ハ却テ之ヲ保存スヘ此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ上文既ニ記載セシ如ク毛皮ヲ韋化スルニ當リ豫メ其毛ヲ脱除シ易カラシムル爲ニ使用スヘキ組成劑是レナリ

右之通相違無之候也

年　月　日

何府縣地名番地住居寄留
族籍
業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
氏　名　印
又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ



肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
讓受人　氏　名　印

農商務卿某殿

第三（器械ノ發明ヲ記載スルトキ）

明細書

「クリーム」分離器械

此發明ハ牛酪製造ノ際氷ノ方便ニ藉リ牛酪ヲ冷却シ以テ其「クリーム」ヲ分離スル爲メニ使用スヘキ新奇有益ノ器械ナリ之ヲ左ニ明解ス

此器械ハ長方形ノ水槽ニシテ其内部ノ中間ニ圖中（イ）ノ如ク氷塊ヲ抑止スヘキ焙格形裝置ヲナシ又槽ノ一側面ニ「クリーム」ノ全ク上浮セルヤ否ヤヲ親ヒ得ヘキ玻璃窓（ロ）ト槽底ニ接近セル所ニ吸子（ハ）トヲ備ヘリ圖中ニ槽ノ側面ヲ截斷セル所以ハ只タ其内部ノ結構ヲ示サンカ爲ナリ

此器械ヲ以テ乳ヲ冷却スルニハ先ツ槽ノ高サ四分ノ一ニ達スル

マテ清淨ナル氷塊ヲ密布シ其上ニ乳ヲ注入ス但シ乳四十斤ニ付氷十斤ノ割合ナリトス然ルトキハ氷塊ハ焙格ニ抑止セラレテ液面ニ上浮スルコナク從テ乳ト混合シテ「クリーム」ノ分離ヲ妨碍スルノ憂アルコナシ斯ク乳ヲ冷却スルヿ大約四十分時間「クリーム」ノ全ク液面ニ上浮スルヲ俟テ之ヲ匕取リ尋テ吸子(ハ)ヲ開キ殘乳ヲ瀉出シ之ヲ乾酪製造場ニ送ル此操作中溶解セル氷水ハ少量ニシテ未タ殘液ノ品位ヲ劣スニ至ラス又更ニ「クリーム」ト混合セサルナリ

此器械ニ依リテ分離セル「クリーム」ハ此品位頗ル良好ニシテ其量甚タ多シ而シテ此器械ヲ使用スルトキハ「クリーム」ノ速カニ分離スルヲ以テ殘液ノ酸味ヲ呈セサルニ先チ之ヲ乾酪製造場ニ送ルヲ得ルト一年四季中何時ニテモ常ニ之ヲ施行シ得ルトノ二便アリ

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ已ニ記載セルカ如ク水槽中ニ裝置セル焙格形ノ抑氷機是レナリ

右之通相違無之候也

何府縣地名番地居住寄留

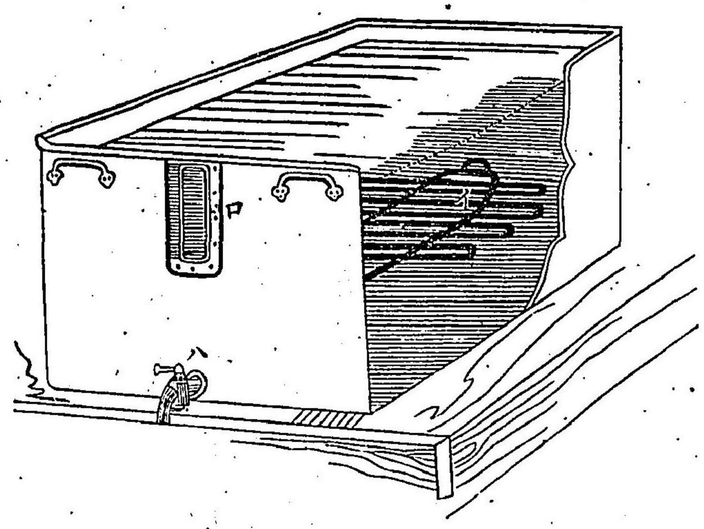
族籍
業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
讓受人　氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

「本人割印」

第四（圖面）






●新潟縣伺
明治十七年七月廿六日
一商標條例頒布後專用ニアラサル商標ヲ用ユルモノハ若シ誤テ其專用

## ○第六節　專賣發明品標記

明治十八年四月農商務省第七號告示

專賣特許條例第十條發明品ノ標記左ノ通相定候條此旨告示候事

專賣特許何年何月何日ヨリ何年間
專賣何年何月何日何年間
專賣何年何月何日何年間
專賣以下年月日ノ數字ヲ記スヘシ
例ヘハ明治十八年七月一日ヨリ五年間專賣特許ヲ受ケタレハ
專賣一八八七一八八五ト記スカ如シ
前三項ノ內專賣人ノ便宜ニ依リ撰擇シテ標記スヘシ但縱若クハ橫ニ一行又ハ二行ニ記シ或ハ圓形楕圓形等ニ一行ニ記スルモ妨ケナシ

## ●第二章　商標

### ○第一節　商標條例

十七年六月第十九號布告

第一條　商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登錄ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登錄ノ日ヨリ十五年間之ヲ專用スルノ權ヲ有ス可シ

第二條　商標ヲ專用セントスル者ハ願書ニ見本幷明細書ヲ添ヘ登錄ヲ願出ツヘシ其明細書ニハ商標ノ說明、方法幷其商品ノ名目種類ヲ詳記スヘシ

權ヲ侵スノ憂不少右ハ條例第四條ノ方法ヲ以テ右等ノ懸念ナカラシムルノ御主意ナルヤ

一一種ノ物品ヲ假令ハ壜詰メ罐詰ノ類ニシテ其容器ヲ大中小ノ數個ニ別ツカ如キモノハ商標ヲモ其容器ニ應シ數個ヲ製スルハ勿論ナリト雖モ願書及明細書ノ如キハ各別ニセス一箇ニ見做シ出願ヲ爲サシメ可然哉

一商標ノ材料ハ獨リ紙類ニ不限其貼付スヘキ物質ニヨリ木類金屬ヲ以テ製スルモ妨ケナキヤ

右數項目下差掛ノ儀有之候條至急何分之御指揮相成度此段相伺候也

○農商務省指令

十七年八月六日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項　伺之通

第二項　願書及其登錄ヲ經タル者ハ登錄証ヲ下付スヘシ

第三條　商標ノ登錄ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日付ヨリ二ケ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸スヘキ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下ス可シ

第四條　登錄商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ムベシ

第五條　左ノ商標ハ登錄ヲ願出ツルヿヲ得ス

一　已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用ユル者

二　地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ內外國ノ旗章ノミヲ以テスル者

三　同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者

四　新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用ユル者



第六條　登錄商標主其專用年限中轉錯轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ケ年ニ及ヒタルトキハ三ケ月以內ニ之ヲ届出ツヘシ

第七條　登錄商標專用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ケ月以內ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條　登錄商標主其商標ノ專用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツヘシ但專用年限ハ最初登錄ノ日ヨリ通算スヘシ

第九條　登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分スヘシ

第十條　登錄商標專用滿期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ滿期三ケ月前ニ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

第十一條　登錄証ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツヘシ

第十二條　商標ヲ登錄セシ後第五條ニ觸レ又ハ登錄願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ其登錄無効ニ帰シ登錄証ヲ返納セシムヘシ

明細書ハ各別ニ出スニ及ハス然レ𪜈容器ニ從テ其商標ヲ大中小ニ爲ストキハ豫テ明細書ニ詳記ス可シ

第三項　伺ノ通

●德島縣伺

明治十七年七月十八日

本年第拾九號御布告商標條例中左記ノ項々疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指揮相成度候也

一商標條例第三條第二項

第十三條　登錄商主其業標ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其專用權ヲ失ス休業三ケ年ニ及フ者亦同シ

第十四條　商標ノ登錄ヲ願出ツル者ハ左ノ手數料ヲ納ム可シ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付ス

一　商標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フ

二　商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル者及滿期續用ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金五圓

三　登錄證ノ再渡ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金壹圓

第十五條　登錄商標主其專用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ幷要償ノ訴ヲ爲スコヲヲ得

第十六條　登錄商標ヲ僞造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十七條　登錄商標ニ相紛フハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ノ末其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下スヘシトアリ依テ其共ニ却下サレタル後再ヒ其一人ニシテ同一商品ニ同樣ノ商標登錄ヲ願出ルコヲヲ得サルハ勿論ニ候得共種類ヲ異ニスル商品ニハ登錄願出ルモ妨ケナキ儀ニ候哉

二同條例第五條第一項ニ

第十八條　第十六條第十七條ノ違犯ニ係ル商標ヲ附シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條　詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ得及商標ノ登錄ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　第六條第七條ノ屆出ヲ其期限內ニ爲サヽル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒスヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十三條　第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登錄商標主ノ告訴第二十四條　登錄商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ仮ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコヲヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セントスル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ於テ其登錄ヲ願出ツヘシ其願書ハ本條例施行ノ日

已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ云々トアリ然ルニ管下產出ノ藍玉食鹽等ノ如キハ從來ノ商標多クハ相類似ス故ニ相紛ラハシキト否ラサルトハ左圖ノ內甲圖ノ如キハ相紛ラハシカラサル者トシ乙圖ノ如キハ相紛ラハシキモノト相認メ可然哉果シテ然ラハ相紛ラハシキモノハ願書進達セス當廳限リ却下候テ可然哉

三同條三第項ニ同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者トアリ然ルニ管下產出食鹽等ノ如キハ從來一村每ニ一ツノ目印ヲ烙印シ其傍ラ一己人ノ小印ヲ烙シ以テ何村ノ產ニシテ某ノ製タルヿヲ證シ之ヲ商標トセリ卽チ左ノ丙圖ノ類ノ如シ就テハ其大印(丙圖中ノイ印ヲ云フ)ノ如キハ村票ニシテ卽チ同業者普通ニ用ヰ又商業上慣用セル目印ト云ハサルヲ得スト雖トモ傍ラ小印(丙圖中ロ印ヲ云フ)ヲ加ヘテ始メテ一己人ノ全キ商標トセリ此等ハ數人各自ニ登錄ヲ願出ルモ妨ケナキ哉

四同條第四項ノ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ附則第一項ニ依リ登錄願出サル者ニ候哉果シテ然ルトキハ條例頒布以前ヨリ現ニ用ヒ來ル商標ハ假令登錄不願出トモ其効力ヲ有スルモノヽ如ク若シ其使用者ハ登錄願濟ノ者トセハ第一項ト重複ニ相成候樣相見ヘ如何心得可然哉

但シ本文前段同之通ニ候ハヽ本條例御頒布以前ヨリ現ニ使用者アルト否トハ判別スルヿ甚タ難ク若シ知ラスシテ甲者登錄ヲ願出登錄證ヲ得而メ乙者ノ現ニ使用セシヿ判然スルニ於テ本條例第拾貳條ニヨリ其登錄無効ニ屬スルトキハ甲者ノ不幸ナル最モ甚シ故ニ其現ニ使用者アルト否トハ如何ノ途ニヨリテ熟知セシムヘキ義ニ候哉

甲圖
上 小むらさき小紫
仝 小紫
仝 小柴
戈ト仝リ

乙圖
戈
大

丙圖

○農商務省指令　十七年八月二日

伺之趣左之通可相心得事

第一項　伺之通

第二項　甲圖中(列ト又)(今ト(六)ノ如キハ相紛ラハシカラサルモノニシテ其他ノ符號ハ悉皆紛ラハシキモノトス如斯紛ラハシキ商標願出候節ハ願人ニ諭示シ願人之ヲ下戻ノ儀願出候ハヽ其意ニ任セ候儀ハ不苦候得共其紛ラハシキヲ以テ其應限リ願書却下候儀ハ相成ラス

但列又会ノ如キハ條例第五條第三項ノ商業上慣用セル目印ナルヲ以テ登錄ヲ願出ツルヿヲ得ス

第三項丙圖ノ如キ普通ノ商標ニ小印ヲ添加シ之ヲ商標ト爲シ各自ヨリ願出候儀ハ相成ラス

第四項　條例第五條第四項ニ掲載セル條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ條例附則ノ限内ニ登錄ヲ經サルモノニシテ即チ公有ニ属セル商標ノ謂ヒニ付條例第五條第一項ノ專用ニ属セル商標トハ區別有之重複之儀ニアラス

同項但書　從來同業者中ニテ使用セル商標ハ其同業者中ニ於テ之ヲ知ルハ最モ便宜ヲ有スルモノナリ故ニ新ニ商標ヲ專用セント欲スル者ハ同業中ニ於テ曾テ使用シ來レルモノニ紛ラハシカラサル商標ヲ選擇スル樣注意セシムヘシ

但登錄證無効ニ属スル旨敢テ其使用ヲ禁スルニアラス

●大阪府伺　明治十七年八月三十一日

一當府下酒造業及酒類受賣業ノ者從來清酒ノ樽包(菰樽ト云フ)ニ白鶴白雪梅園等ノ銘印ヲ用ヒ以テ商標トナスモノ多シ右ハ同業者中相用ユルモノナルカ故ニ條例第五條第三項ニ該當スルモノ、如ク相見候得共退テ右銘印使用ノ由來ヲ推究スレハ蓋シ其始ハ一人一己ノ商標ナルヤ復タ疑ヲ容レス然ラハ則チ同業者中最モ古ク相用ユルモノハ其專用權ヲ有スルモノ、如ク相見候ニ付無論第五條第三項ノ範圍外ト心得可然哉

二已ニ登錄ヲ經タル商標ヲ改正セント欲スル片ハ之カ出願ヲ要スル勿論ニ候處商標中專用ノ要點ヲ除クノ外上下左右等ノ圖形摸樣及文字等ヲ變換セント欲スル片ハ出願ヲ要スヘキ哉將タ届出ノミニテ可然哉

三同一種類ノ商品中品位數等ニ分ルヽモノアリ其商標ノ專用點ハ同一ナルモ其品位ノ等級ニ應シ松印竹印或ハ甲乙或ハ鶴龜等ノ銘印ヲ添加シ以テ上中下ノ品位ヲ區別スルモノアリ右ハ當初登錄出願ノ際明細書ニ其區別ヲ記載致置候得ハ適宜添加候トモ妨ケナキ儀ニ候哉

○農商務省指令　十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條　白鶴白雪等ノ銘ニ於ケル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ酒質ヲ指定スルニ至リシ片ハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二條　商標中專用ノ要點外ニアル圖形摸樣等ヲ變換スルハ商標ノ改正ニ属ス

但條例第六條ノ場合ニ於テ商標中ノ住所氏名等ヲ變換セント欲スル時ハ届出ノミニテ可トス

第三條　見解ノ通

●大阪府伺　明治十七年八月十三日

一二人以上同一又ハ相紛シキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用スル能ハサルハ勿論ニ候
得共茲ニ同業者一致團結シ申合規約ヲ設ケ以テ製品ノ改良ヲ圖ルカ爲メ必要ナル
場合ニ於テハ仲間中ノ約束ヲ以テ一定ノ商標ヲ製シ之ヲ同業者各自ノ製品ニ貼用
セント欲スルモノアリ右ハ專用ノ權アリ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキモノニ候哉
一前項願出ルヲ得ルモノトセハ同業仲間取締人ノ名義ヲ以テ出願可然哉
一仲間ニ於テ一定ノ商標ヲ貼付セシ上尙製造者自己ノ商標ヲ貼付セント欲セハ別ニ
之ヲ製シ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキハ勿論ニ候哉

○農商務省指令　十七年八月三十日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一項第二項相成ラス

但仲間若クハ組合名ヲ以テ製造販賣スル物品ニ貼用スルモノハ此限ニアラス

第三項見解之通

●千葉縣伺　明治十七年八月廿一日

本年第拾九號布告商標條例第五條第二項商品普通名稱第三項商業上慣用セル目印等ヲ
以テスル者ハ商標登錄願出ツルコトヲ得スト有之候處左記第一項包紙ニ印刷或ハ物品
貼用　第二項業上慣用目印シ(樽或ハ藁苞本製筐ノ類)墨汁ヲ以テ畫ク等ノ類ハ出願ス
ヘキ限リニ無之ト考量候得共一己人ノ慣用他方ヘノ信用ヲ目的トシテ出願スル輩モ可
有之儀付ニ至急何分ノ御指示被下度此段相伺候也

第一項

一何々丸何々散　何々製ノ粉等ノ類

但上ニ官許左右ニ(國郡村姓名)或ハ上ニ寒製左右ニ(國郡村家號名)等ノ類

第二項

一分　分　㊀等其他種類

但上ニ何々製左右ニ(國郡村家號姓名)等烙印或ハ黑汁ニテ畫ク等ノ類

○農商務省指令　十七年九月九日

伺ノ趣一己人ノ從來使用セルモノト雖モ商品普通ノ名稱又ハ形質品位ヲ表スル文字及
ヒ從來世上ニ於テ布簾ニ慣用セル目印ノ如キハ登錄不相成儀ト可相心得事

●兵庫縣伺　明治十七年八月(日不詳)

第壹條　條例第五條第貳項中商品普通ノ名稱トハ例ヘハ酒、醬油、綿ノ類ヲ指スカ又ハ
此等ノモノハ商品固有ノ名稱ニシテ灘酒、龍野醬油、阪上綿ノ類ヲ云フ儀ニ候哉

第貳條　條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印トアルハ例ヘハ
極上、飛切、天下一、天印、精選等ノ類ヲ云フ乎又ハ同條者各自ノ目印乃チ大入工等ノ
類ヲモ併セ指ス乎

第三條　條例第五條第四項中本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トアリ當縣下灘
酒ニ正宗、惣花、大關、等ノ酒銘アリ其根元ハ某一家ノ酒銘ナリシモ其銘漸ク聲價ヲ
世上ニ博スルニ從ヒ他人之ニ擬スルモノ次第ニ增加スルニ從テ聲價愈々博ク若シ一
朝之ヲ制限スル時ハ販路忽チ障害ヲ來スヘキ景況ニシテ近來某製ノ正宗某製ノ惣花
ト唱ヘ其酒銘殆ト該地方慣用ノ姿ヲナセリ其標牌記載方ハ酒樽ノ上包ニ正宗、惣
花、大關等ノ酒銘ヲ大書シ之ニ注連又ハ松或ハ竹梅櫻等ノ圖繪ヲ加ヘ且某釀造、極寒
製、天下一、本丸等ノ烙印ヲ捺ス其圖形概ヲ左ノ如シ

「ト」極寒製

別吟造——チ

「リ」本

「ヌ」井

「ル」生（朱字）

「長部釀造」「へ」

右疑問

第壹　イ印大關ハ條例第五條第四項條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ニ相當シ即チ公有ノ商標ト相心得ヘキ哉

第貳　ニ印ホ印モ亦其慣用法イ印ニ異ナラサルヲ以テ前同樣可相心得哉

第三　ハ印ト印チ印ル印ハ條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ニ相當スルモノト可心得哉

第四　ロ印ヘ印ヌ印リ印ハ何レカ其一ヲ擇ヒ例ヘハロ印又ハヘ印ヲ以テ商標トシ登錄願出ルヿヲ得ヘキモノニ候哉

第五　果シテ前數項伺ノ通ナルトキハ專用權ヲ有スル登錄商標ハロ印又ハヘ印ニシテ其他イ印ハ印ニ印ホ印ト印チ印リ印ヌ印ル印等ハ依舊適宜併用スルモ妨ケナキ儀ニ候哉

第六　ロ印又ハヘ印卽チ登錄ヲ得タルモノヽミヲ以テ商標ト唱ヘ其他ノ諸圖繪烙印等ハ畢竟製品容器ヲ裝飾シタル繪紋ノ一部ニ屬シ商標ノ全形以外ト倣スヘキ哉又ハイ印ヨリル印ニ至ルモノハ悉皆商標ノ全形內ニ屬スヘキ儀ニ候哉

第四條　本年御省第五號告示第二書式第四項（此商標ノ何處ニハ某地何某ノ文字ヲ何樣ニ附記致候）トアリ例ヘハ※何地何某製如此類ノモノ其櫻花ハ商標ニシテ何地何某製ノ文字ハ附記ナリ此附記ハ商標全形ノ內外何レニ可屬哉

第五條　若シ前條ノ附記ヲ以テ商標ノ全形內ニ屬スルモノトセハ例ヘハ其製品容器ノ正面ニハ櫻花ノミヲ畫キ何地何某製ノ文字ヲ其側面ニ附記スル場合ニ於テハ一個ノ商標二ケ所ニ分裂スヘシ此等ハ妨ケナキ儀ニ候哉

第六條　商標ヲ得タル商標ノ全形內外上下左右周圍等ヘ登錄商標ノ文字又ハ橫文ニテ同意義ヲ或ハ記載シ或ハ記載セサル等適宜ニ任セ候儀ハ不苦候哉

第七條　例ヘハ櫻花ノ商標ヲ以テ登錄ヲ得其製品上中下ヲ區別セン爲メ商標ノ全形內又ハ全形外ヘ上等品ニハ全中等品ニハ全下等品ニハ全等ノ印ヲ適宜記載スルハ妨ケナキ儀ニ候哉

第八條　登錄商標全形ノ內外適宜ノ個所ヘ其商品ノ容量量重尺度番號年月等ヲ記載スルハ商標主ノ隨意ニ任スヘキ儀ニ候哉

第九條　商標登錄願書式ニ何組組長トアルハ同業者各自業務ノ改良進歩ヲ計ルノ目的ヲ以テ組織シタル例ヘハ茶業組合鑑業組合ノ如キ類ヲ云フニ非スシテ全ク會社ノ方法ヲ以テ一個体ヲ爲シタルモノヲ指稱スル儀ニ候哉

第十條　條例第九條登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用云々トアリ種類異同ノ差別ハ本年第十三號布達第十一條ニ明記アル六十五種ノ區別ニ從ヒ例ヘハ食鹽ト膏藥ハ其物相異ナルカ如シト雖モ等シク第一種ニ屬スルヲ以テ同種類トシ眞綿ト木綿綿ハ共ニ第二十五種ニシテ全種類ナルモ絹絲ト綿絲ハ第二十六種ト第二十七種ト其屬スル所相異ナルヲ以テ其品相似タリト雖モ眞綿ト木綿綿ノ例ニ依ラス仍ホ別種類ト爲スカ如キ旨意ニ候哉果シテ然ラス食鹽ニ用ユル登錄商標ヲ膏藥ニ兼用又ハ轉用スルモ同種類中ナルヲ以テ別ニ出願又ハ届出等ニ及ハサル儀ニ候哉

第十一條　登錄商標ノ全形中又ハ其以外ニ灘酒「龍野醬油」「阪上綿」等ノ文字ヲ適宜記載スルハ不苦儀ニ候哉

第十二條　製造人登錄商標ヲ其製品ニ貼付シ之ヲ買受ケ販賣スル商人モ亦其自己ノ登錄商標ヲ之ニ貼付シ順次賣買スル毎ニ各商標ヲ增貼スルハ妨ケナキ儀ニ候哉

第十三條　登錄願手續第二條ノ見本願書明細書等縣廳參考ノ爲メ成規員數ノ外見本ハ壹枚願書明細書ハ各壹通宛願人ヨリ別ニ差出サセ不苦候哉

○農商務省指令　十七年九月十七日

伺ノ趣左ノ通可相得心事

第一條　總テ普通ノ名稱トス

第二條　條例第五條第三項ニ掲載シタル同業者普通ニ用フル目印トハ例ヘハ茶商ノ茶袋ニ茶壺ノ形ヲ付シ足袋商ノ包紙ニ足袋ノ隻形ヲ付スルノ類ヲ謂ヒ商業上慣用ノ目印トハ商家一般ニ慣用シ來レル布簾印卽チ㊋入等ノ類ヲ謂フ

但極上飛切等ノ文字ハ物ノ品位ヲ表スルカ爲メニ用フルモノナルヲ以テ之ヲ商標ノ要部ト爲スヲ得ス

第三條　第一項　酒銘大關ノ如キハ條例附付則第一項ノ願書留置期限ヲ經過スルニ非サレハ其公用商標タルト否ラサルトヲ判定スルヲ得ス

但大關ノ銘タル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ酒質ヲ指定スルニ至リシ件ハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二第三第四項　ニホ兩個ノ印ハ第一項本文ノ通ハトチル四個ノ印ハ物ノ品位ヲ表スルモノナルヲ以テ登錄ヲ願出ツルヲ得スリヌ兩個ノ印ハ第二條本文ニ據テ了解スヘシヘ兩個ノ印ハ外部ノ螭龍及ヒ俵ノヨヲ要部トシ內部ノ文字ヲ要部外ニ附記スレハ登錄ヲ願出ルモ妨ナシ

第五項　併用ノ儀ハ見解ノ通

第六項　前段見解ノ通

第四條　書式ニ掲載シタル附記ハ商標ノ全形內ニ附記スルノ方法トス

但伺面書例附記ノ如キハ之ヲ全形ノ內外孰レニ屬スルモ願人ノ適宜タルヘシ

第五條　全形內ノ附記ヲ製品ノ容器ニ從テ變換スルヿアルモノハ明細書中用方ノ處ニ於テ其旨ヲ詳記スヘシ

第六條　商標ノ全形外ニ記載スルハ適宜ニ任スト雖モ全形內ニ記載セント欲スル件ハ豫テ明細書ニ記載シ置ヘシ

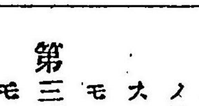
第七條　前同斷

第八條　前同斷
第九條　見解ノ通
第十條　前段ハ見解ノ通後段ハ届出ヘシ
第十一條　第六條ノ指令ニ同シ
第十二條　見解ノ通
第十三條　相成ラス
但願人肯諾ノ上ハ妨ナシ

●山口縣伺　明治十七年九月八日

本年第拾九號御布告商標條例第五條第三項ニ商業上慣用セハ目印ヲ以テスル者ハ登錄ヲ願ヒ出ルヲ得スト有之然ルニ縣下岩國産紙ノ儀ハ舊藩ノ當時ニ於テ一ノ官衙アリテ左圖ノ符號ヲ貼シ其品位ヲ分別スルノ成規ニ候處置縣以來岩國義濟堂ナルモノ其方法ニ據リ該符號ヲ專用シ來レリ又近來ニ至リテハ同業者各自ニ之ヲ貼付スル慣行之アリ若シ此際他ニ該符號ヲ以テ商標登錄ヲ願出ルトキハ該社專用權ヲ拋棄致シ候ニ付目下登錄方可願出哉伺出候右等ハ條例第五條第三項ニ該當スル者ト思考致候得共爲念相伺候也

符號ノ圖



但∴サ上等トシ順次之ニ次ク

○農商務省指令　伺ノ通　十七年九月二十二日

●島根縣伺　明治十七年七月十二日

第一條該條例第五條第二項ニヨルニ地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章ノミヲ以テスル者ハ登錄ヲ願出ル能ハサル儀ニ候處内外國ノ旗章ニ商品普通ノ名稱ヲ加ヘ又ハ地名人名家號會社名ニ商品名稱ヲ加フルト如キハ登錄ヲ願出ル事ヲ得ヘキ筋ニ可有之哉

第二條右同項中商品普通ノ名稱トハ産出地製造者ノ異ナルニ關ハラス同種ノモノニハ普ク通用スル名稱ヲ指ス儀ニシテ例ヘハ河内木綿雲州人參ト云フカ如キ一地方ノ物産ニ固有スル名稱ハ此限外ニ候哉又家傳ノ秘法若クハ自家ノ發明ニヨリ製造スル商品ニシテ特ニ固有ノ名稱ヲ付シ同種類ノモノト雖モ他家ノ製品ニ用イサルモノヽ如キハ商標トシテ登錄ヲ願出ツルヲ得ヘキ儀ニ候哉

第三條數人組合ヲ設ケ同一種類ノ商品ニ對シ同一ノ商標ヲ用フルノ約束ヲ結ヒタルモノハ其登錄ヲ願出ツルヲヲ得ヘキ儀ニ候哉又別ニ組合ヲ設ケサルモ尚ホ數人連署シテ出願シ得ヘキ筋ニ候哉

第四條該條例第八條ニ分與トアルハ數個ノ商標ヲ專用スルノ權ヲ有スルモ其内一個若シクハ數個ノ商標ヲ他人ニ讓與スル事ヲ指ス儀ニ可有之哉又ハ商標ノ專用權ヲ得タルモノ自ラ用フル商標ヲ他人ニモ亦之レヲ使用セシムル儀ニ候哉

第五條　登錄願手續第四條乃至第七條ノ場合ニ於テモ一個ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒ又ハ二個以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用フルトキハ尚ホ第三條ニ準シ各別ノ願書幷明細書ヲ差出スヘキ筋ニ候哉

第六條登錄願手續第九條ニヨルニ商標ノ彩色ハ適宜變換スルコトヲ得ヘキ儀ニ候處紙片ニ押捺シテ商品ニ貼用スル目的ヲ以テ登錄ヲ得タルモノ場合ニヨリ之ヲ燒印トシテ使用スルカ如キモ尚ホ商標主ノ自由ニ任セラルヘキ儀ニ候哉

○農商務省指令　十七年八月二日

第一條　願出ツルヿヲ得ス

第二條　一地方ノ物産ニ固有スル名稱ト雖モ亦商品普通ノ名稱ノ限内トス後段ハ伺之通

第三條　組合ニ於テ販賣スル商品ニ商標ヲ專用セント欲スル片ハ其組合長ヨリ登錄ヲ願出ツヘシ後段ハ願出ツルヿヲ得ス

第四條　後段ノ通

第五條　伺ノ通

第六條　用方ハ明細書ニ記シアル用方ト異ナルヲ得ス

●和歌山縣伺　明治十七年九月四日

本年第十九號御布告商標條例中疑義ヲ生シ候ニ付左ノ事項相伺候何分ノ御指示相成度候也

第一項　本條例第五條第壹項ニ已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者同第三項ニ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者ハ商標登錄ヲ願出ルヲ得ストアリ其商標ト目印トノ甄別ハ圖形ノ疎密若シクハ符號ノ大小等ヲ以テ判ツ可キニ非ス縣下ニ產出スル木炭醬油又ハ食鹽等ノ如キモノハ從來慣用セル符號ハ頗ル疎ニシテ一瞥以テ識別シ易カラス其商標ト目印トノ區別ハ如何相心得可然哉

第二項　前項若シ圖形ノ模樣又ハ疎密ヲ以テ判ツ可カラサルモノトセハ商標ナルカ將タ目印ナルカハ願人ノ申立ニ任セサル可カラス若シ然ラハ甲者頗ル簡單ナル圖形ヲ以テ商標ト爲シ其專用權ノ登錄ヲ願出乙者ハ甲者ト同一ノモノヲ以テ自家ノ目印ト爲シ各之ヲ用ユル片ハ甲者ノ商標ニ同シキモ乙者ノ目印ナルヲ以テ甲者ニ於テハ其專用權ヲ侵サレタルモノト爲ス可ラス甲者登錄ノ保護ヲ受クルモ完全ノ効力ヲ缺カ如シ右ハ如何相心得可然哉

○農商務省指令　十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一項　商標トハ自他ノ商品ヲ區別スルカ爲メ商品ニ付スル目印ヲ謂ヒ商業上慣用ノ目印トハ從來一般ノ商家ニ於テ用ヒ來レル布簾印即チ㊋三ノ類ヲ謂フ

第二項　既ニ登錄商標ト同一又ハ紛ハシキ目印ハ假令何等ノ名稱ヲ以テスルモ同シ商品ニ用ユルヿヲ得ス

●岡山縣伺　明治十七年十月八日

一本年第十九號ノ布告ヲ以テ商標條例御制定相成候處右ハ一般商家ノ賣品ニ限リ專用可致モノニシテ府縣監獄署ニ於テ製造スル物品ニハ適用難致儀ト思量候得共抑在監人ノ如キハ無資無產無技無能ノ徒多キヲ以テ監獄則ニ於テ之レニ種藝ヲ授クルノ事業ヲ設ケテ以テ在監人ニ習熟セシムルニ於テハ其製出スル處ノ物品ハ監獄署ニ於テハ販賣セサルヘカラス其販賣ノ方法ニ至テハ均シク他ノ商店ニ異ナルヿナシ然ラハ即チ監獄署ノ製造品ト雖モ商標專用登錄ヲ願出不苦候哉

一果シテ前條御許可相成候ハヽ在監人工業ヲ習熟シ放免ノ後チ監獄署ニ於テ商標專用ヲ得タル物品ヲ製作シ之レヲ販賣セントスルモノヘハ商標專用ノ權ヲ分與致シ不苦候哉

○農商務省指令　十七年十二月廿五日

伺ノ越出願スルノ限リニ無之儀ト可相心得事

●島根縣伺　明治十七年十月廿四日

商標條例中疑義ノ廉左ニ相伺申候

第一條　條例第五條第四項ノ義ニ付德島縣伺御令指ノ趣有之候處其公有標ニ屬スヘキモノハ幾年ノ後露顯スルモ限ナキヤ

第二條　前條公有商標後日露顯シ之ニ牴觸スレハ條例第十二條ニ據リ無効ニ歸スヘキ處其公有商標トナスヘキ實否ノ調査ハ何等ニ據ルヘキモノナルヤ

第三條　若シ公有商標ハ人民ノ申出ニ任セ別ニ調査セラレサルモノトスレハ附則限內ニ出願登錄ヲ得專有權ヲ有スル者ト牴觸スルトキハ如何可心得哉

第四條　公有商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ヲ同一種ノ商品ニ用フルヿハ出願スルヲ得スト雖ヒ出願セスシテ同樣ノ商標ヲ使用スルモノアルモ不問ニ置クヘキ筋ナルヤ

○農商務省指令　十八年三月三日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一條　見解ノ通

第二條　已ニ登錄ヲ經タル商標ニシテ後日公有ニ屬スヘキ商標ナルコトヲ商標登錄所ニ於テ發見シタルトキハ農商務卿之ヲ判定シ民間ニ於テ發見セルトキハ裁判官ノ審判ニ據ルモノトス

第三條　附則限內ニ出願シ其登錄ヲ經タル商標ハ條例第五條第四項ニ牴觸スルヿナシ

第四條　見解ノ通

●京都府伺　明治十七年六月三十日

商標條例第貳條ニ依リ商標登錄願出タル際同一又ハ相紛ハシキ商標ヲ同一種類ニ專用センヿヲ願出ルモノアリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ同シキ者ハ條例第三條ニ依リ共ニ之ヲ却下セラルヘキ成規ニシテ之ヲ再ヒ願出ルヿヲ得ヤ否ニ至テハ他ニ明文無之哪カ疑義相生候右ハ一旦却下セラレタル商標ハ再度登錄願出ルヿヲ得サル儀ニ候哉

○農商務省指令　十七年七月九日

伺之趣同日附ナルヲ以テ共ニ却下サレタル商標ト雖ヒ双方熟議ノ上其中壹人ヨリ再願スルヲ得ヘキ儀ト可相心得事

●富山縣伺　明治十八年七月八日

登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ハ商標登錄願手續第拾壹條ニ明示有之候然處其同種內ノ品ヲ貳品以上(甲乙丙戊ハ丙丁戊)便宜ニ取リ束ネ之ヲ包括スル爲メ相用候上包紙若クハ上袋等ヘハ登錄商標ヲ使用スヘキ限リニ無之義ト相心得可然哉

○農商務省指令　十八年七月廿一日

伺之趣商標明細書中ニ掲載セル商品ナレハ幾品タリヒ之ヲ包括スル上包紙若クハ上袋等ニ登錄商標ヲ使用シ差支無之義ト可相心得事

●栃木縣伺　明治十七年十一月八日

第壹項　管內ニ於テ從來家號ノ頭字ヲ以テ洋字Kトナシ商標ニ使用セシモノアリ今之カ登錄ヲ願出ヅルト雖ヒ右ハ洋和ノ文字ヲ異ニスルモ條例第五條第貳項ニ該當スルモノト心得可然哉

第貳項　前項ノ場合ニ於テハ願書ハ地方廳限リ下戻可然哉

○農商務省指令　十七年十二月三日

伺之趣左之通可相心得事

第壹項　願出ツルモ妨ケナシ

第貳項　例規ニ據テ進達スヘシ

●和歌山縣伺　明治十七年十二月十七日

本年十二月八日官報第四百三拾五號登載商標登錄願ノ儀ニ付栃木縣ヨリ伺第壹項ニ家號ノ頭字ヲ以テ洋字トナシ商標ニ使用セシモノ登錄願出云々ニ對シ御省御指令ニ願出ツルモ妨ケナシトアリ右ハ條例第五條第貳項ノ家號トハ假令ハ紀伊ノ國屋又ハ尾張屋等ノ類ヲ指シタルモノニ可有之歟果シテ然ラハ右等ノモノハ願出ツルヲ得サルモノニ有之處如此家號ノ頭字ヲ洋字ニ改メタルモノハ商標ト爲ルヲ得可キモノナラハ紀伊ノ國屋ノ紀、尾張屋ノ尾ノ類ノ如キモ和字ヲ以テ商標ト爲スヲ得ヘキヤ都テ右等ノ種類ハ卽チ商標ニ非スシテ所謂目印ノ部ニ屬ス可キモノト相考候得共聊カ解兼相伺候

○農商務省指令　十七年十二月二十四日

伺之趣家號ノ頭字ト雖モ從來同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用之目印ニアラサルニ於テハ其登錄ヲ願出ツルモ妨ケナキ儀ト可相心得事

●栃木縣伺　明治十八年十二月五日

從來使用ノ商標ニシテ卽今登錄願出ルモノ有之右ハ商標條例附則ニ據リ出願スヘキモノニシテ既ニ期限ヲ經過候上ハ當廳限リ願書却下不苦候哉

○農商務省指令　十八年十二月二十一日

伺ノ通

## ○第二節　商標登錄願手續

十七年六月第十二號布達

第一條　商標ニ關スル願書屆書ハ都テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出ス可シ

第二條　商標ノ登錄ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚及ヒ手數料ヲ添ヘ願書幷ニ明細書各二通ヲ差出ス可シ

第三條　一箇ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ三箇以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルトキハ其商品一種又ハ商標一箇毎ニ各別ノ願書及明細書ヲ差出ス可シ

第四條　條例第七條ニ據リ相續ヲ屆出ツルトキ其死亡後相續ニ係ル者ハ相續者幷身元詳ナル証人二名以上連署シ其生存中ノ相續ニ係ル者ハ登錄商標主相續者連署ス可シ

第五條　條例第八條ニ據リ讓與分與ヲ願出ツルトキハ讓主讓受主連署シ讓主ヨリ登錄証幷約定書寫及ヒ手數料ヲ添ヘ願書二通幷明細書其登錄ヲ經タルトキハ分受人ニハ別ニ分受登錄証及ヒ明細書ヲ下付シ分與人又ハ讓受人ニハ前登錄証及明細書ニ裏書檢印シテ之ヲ下付ス可シ

（讓與願ニハ二通分與願ニハ三通ヲ差出スヘシ）

第六條　條例第九條ニ據リ登錄商標ノ轉用兼用及改正ヲ願出ツルトキハ第二條ニ準據ス可シ

第七條　條例第十條第十一條ニ據リ商標ノ續用及登錄証ノ再渡ヲ願出ツルトキハ手數料ヲ添ヘ願書二通ヲ差出ス可シ

登錄願手續御制定相成候處譬ハ製絲ノ如キ春秋蠶ノ區別ニヨリ其商標ヲ二樣ニ製シ紋樣ハ同一ナルモ彩色ヲ殊ニスル而シテ尙之ヲ明瞭ナラシムル爲メ春秋蠶絲ノ文字ヲ記載セリ右ハ彩色及ヒ文字ノ相違ハ有之得候共紋樣同一ナル上ハ壹箇ノ商標ト見做シ可然哉

○農商務省指令　十七年九月十九日

伺之通

但春秋蠶絲ノ文字ハ商標ノ附記ナルヲ以テ商品ニヨリテ文字ヲ異ニスルヿアラハ其趣ヲ明細書ニ詳記スヘシ

●京都府伺　明治十七年八月二日

麹種モヤシハ商標登錄願手續第十一條第十一條商品ノ種類中何種ニ該當候哉

○農商務省指令　十七年八月二十一日

第八條　登錄願書ヲ却下スル片ハ其理由ヲ指示スヘシ

第九條　登錄商標主ハ其商標ノ彩色ヲ適宜變換スルヿヲ得

第十條　登錄商標主ハ農商務省ノ指揮ニ隨ヒ商標又ハ其寫書ヲ登錄証下付ノ日ヨリ三十日以內ニ差出ス可シ

第十一條　登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ヲ定ムルヿ左ノ如シ但願人ニ於テ其種類ヲ判知シ難モノハ農商務省ニ於テ之ヲ判定スヘシ

商品ノ種類

第一種

化學品及藥劑

酸類　鹽類　「アルカリ」　漂白粉　護謨　樹脂膠　燐　石礬

酒精　「グリセリン」「キナエン」「モルヒチ」丁幾劑　舍利別

煎劑　丸藥　膏藥　藥油　麝香　丁子等

第二種

染料及顏料

藍玉　藍靛　紫根　紅朱丹　綠青　燒青　洋靛　白粉　胡粉

藤黃等

第三種

塗料

漆　假漆「ペンキ」澁　靴墨等

第四種

香料及燻料

香油　髮膏　香袋　香水　炷香　線香　煉香等

第五種

金屬及其半加工品

銑鉄　鍛鉄　鋼鉄　條鉄　鉄葉　鉄板　銅　銅板　銅鉄線

鉛　鉛板　亞鉛　亞鉛板　錫　合金等

第六種

金屬ノ製品

鑄物、打物　彫鏤品及編物等

第七種

利器及尖刃器

鎌　鋸　鑿　錐　鍼　針　釘　剪刀　小刀　剃刀　庖丁　鳶嘴等

第八種

貴金屬及其製品（アルミニウム金ニツケル銀ノ製品モ此中ニ屬ス）

伺之趣商標登錄願手續第十一條第四十二種ニ可屬儀ト可相心得事

●函館縣伺　十八年八月十九日

大坂府權衡製作請負人山本清之助儀自分製作ノ權衡ヘ別紙見本ノ商標使用ノ儀大坂府廳ヲ經出願許可相成候趣ニ候處同人儀ハ當縣權衡製作請負モ兼業致居候ニ付當縣於テ製作ノ權衡ヘモ右商標使用致度旨

今般届出有之右商標ハ山本清之助製作ノ權衡ヘ使用許可相成タル儀ニ付假令製作地ハ異リ候トモ使用候テ差支無之樣被相考候得共條例中明文無之候ニ付如何相心得可然哉

（見本畧ス）

○農商務省指令

十八年九月五日

伺之趣差支無之儀ト可相心得事

第九種　黃金　銀　四分一　紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品及彫鏤品等

第十種　珠玉及其彫鏤品　珊瑚珠　眞珠　瑪瑙　水晶　黃玉　碧玉等及其摸造品

第十一種　鑛物類（但石炭ハ第五十一種ニ屬ス）　石材及其製品並彫鏤品　石板石　大理石　砥石　石器等及其摸造品

第十二種　漆喰類　漆喰　「セメント」　石膏等

第十三種　陶磁器類　諸種ノ陶磁器　土器　坩堝　瓦　煉化石等

第十四種　七寶燒

第十五種　玻璃及其製品　玻璃壜　玻璃管　彩色玻璃等

第十六種　機械類　紡績機　裁縫機　製糖機　印刷機械其他諸製造機械　蒸氣ノ機關及罐等

第十七種　農工器具　鋤　鍬　唐箕　熊手　釘拔　鉄鎚　繩墨等

第十八種　學術上ノ器械類　理化學　醫術及測量等ノ器械

第十九種　度量權衡

第二十種　運送用ノ車類

第二十一種　荷車　馬車　人力車　自轉車等

樂器　琴　三味線　胡弓　笛等

第二十二種　時計及其付屬品

第二十三種　銃砲　彈丸　火藥　烟火類

第二十四種　蠶種紙　繭

第二十五種　眞綿及木棉綿

第二十六種　生絲　絹絲及天蠶絲（琴絲　金絲　銀絲等モ此中ニ屬ス）

第二十七種　綿絲

第二十八種　毛絲

第二十九種　麻絲

第三十種　絹織物

第三十一種　木綿織物

第三十二種　毛織物

第三十三種　麻織物

第三十四種　絹綿麻毛外ノ織物及各種ノ交織物

第三十五種　絲類ノ編物及組物

「レース」打紐・網等

第三十六種

被服

諸種ノ衣服　織物製帽子　手套　足袋　織物製雨衣　袴

目利安等

第三十七種

釀造物及飲料

諸種ノ酒　酢、醬油　蜜柑水　曹達水等

第三十八種

砂糖

諸種ノ砂糖　糖蜜　蜂蜜等

第三十九種

菓子及麵包類

干菓子　蒸菓子　掛ケ物　西洋菓子　飴　砂糖漬等

第四十種

茶及咖啡類

第四十一種

煙草類

第四十二種

穀類菜種子及菓物類

五穀　蔬菜　蕈　菓實　種子　根球等

第四十三種

挽粉澱粉及其製品

諸種ノ挽粉　澱粉　麪類　湯波　蒟蒻　凍豆腐　凍蒟蒻等

第四十四種

味噌　嘗物及漬物類

第四十五種

肉類海草ノ貯藏食品

鰹節　鰯　乾鮑　海苔　昆布　佃煮　鑵詰　雲丹諸種ノ鹼製品

等

第四十六種

牛乳製品（コンデンストミルク）

凝乳　乳油（バタ）　乳餅（チーズ）　乳粉等

第四十七種

煙具及袋物

諸種ノ煙管　煙袋　煙管筒　懷中物等

第四十八種
紙及其製品
諸種ノ紙　色紙　短冊　擬革紙　油紙　澁紙　書簡筒　張文匣
一閑張　元結等
第四十九種
筆墨類
筆　墨　朱墨　印肉　墨汁　石筆　鉛筆　洋筆等
第五十種
皮革及其製品
馬具　革包（カバン）　文匣　革帶　靴等
第五十一種
燃材
諸種ノ炭　附木　摺附木　燈心等
第五十二種
油蠟類
諸種ノ油　蠟燭　脂肪等
第五十三種
肥料
干鰯　鯡粕　油粕　骨粉等
第五十四種
木竹材
第五十五種
木竹籐製品及其漆塗蒔繪品類
指物　挽物　曲物　桶類　編物　組物等
第五十六種
角甲牙類ノ製品
第五十七種
藁及草ノ製品
疊表　莚　編笠　繩　麥藁細工等
第五十八種
傘杖及履物
諸種ノ傘下駄草履鼻緒等
第五十九種
扇子及團扇

第六十種
提燈及「ランプ」類
第六十一種
齒磨及洗粉
第六十二種
刷子類
第六十三種
玩具類
花簪　鞠　碁　將棊　人形　獨樂　揚弓　押繪　造花　骨牌等
第六十四種
錦繪及寫眞類
第六十五種
書籍新聞紙雜誌類

## ○第三節　商標登錄願書式

明治十八年一月農商務省第一號布告

本年第四號ヲ以テ商標條例附則中追加相成候ニ付商業上慣用ノ目印ニシテ現ニ同業者間ニ專用ノ効アルモノニ限リ其登錄願書ノ書式左ノ通相定候條此旨告示候事

書式

（用紙美濃紙）書中字體ハ明瞭ナルヲ要ス

商標登錄願書

私（當會社、當組）儀別紙明細書ニ記載ノ商標ヲ何年何月何日（使用ク）シテ其年月日詳ナラサル者ハ年又ハ月ノ下ニ頃ノ字ヲ記スヘシ）ヨリ相用來候處同業者間ニ專用ノ効アルハ勿論一切御成規ニ相觸候儀無之段確信致候間御登錄ノ上証書御下附相成度同業者二名ノ保証人相立此段奉願候也

年　月　日

何府縣地名居住（寄留）
族籍
業名
願人　氏　名　印
肩書前同斷
保証人　氏　名　印
同　氏　名　印
又ハ
肩書前同斷

何會社
何組　社印

社長
組長
願人　氏　名印
肩書前同斷
保証人　氏　名印
同　氏　名印

農商務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何府縣知事令　某　印

## ○第四節

官設工場商標專用方法

明治十七年九月農商務省第二十七號(府縣ヘ)達

本年第十九號ヲ以テ商標條例布告相成候處其廳所轄官設工場ニ於テ其製造品ニ商標ヲ專用セント欲スル者ハ總テ本條例及ヒ本年第十三號布達商標登錄願手續ニ據リ候儀ハ勿論ニ候得共其商標登錄願屆書差出方手續ハ直ニ當省商標登錄所ヘ爲差出登錄相濟候上手數料ハ其廳ヘ收入シ當年第二十四號達ノ順序ニ據リ大藏省ヘ納付候義ト心得ベシ

但各省所轄官設工場登錄商標ノ儀モ本文手續ニ據リ登錄濟ノ上手數料ハ工場所在地方廳ヘ送付候筈ニ付其收納方ハ本文ノ通取計ヘシ

右相達候事

○明治十七年七月農商務省第二十三號達

本年第十三號布達商商登錄願手續第一條當省ヘ差出スヘキ願書屆書ハ當省工務局商標登錄所ヘ送達候義ト可相心得此旨相達候事

明治十七年七月農商務省第廿四號府縣達

## ○第五節

商標登錄手數料收納手續

今般第十九號商標條例公布相成候ニ付テハ商標登錄手數料收納手續左ノ通可相心得此旨相達候事

商標登錄手數料收納手續

一(明治十八年四月同省第十四號達改正)商標條例第十四條商標登錄手數料ハ出願者ニ於テ明治十七年大藏省第四十一號達國稅金收納順序ニ依リ第二號ノ切符ヲ以テ郡區長ニ納メ郡區長之ヲ預リ置其旨收稅長ニ報道シ追テ登錄證到達ノ上成規ノ手續ヲ以テ同省ヘ納

富山縣伺
明治十八年七月十五日

一商標條例第十四條手數料上納手續第一項ニ商標壹箇ニ付金拾圓但一ノ商標ヲ數種

ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フトアリ又商標登錄願手續第三條ニ壹箇ノ商標ヲ貳種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ貳箇以上ノ商標ヲ壹種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルトキハ其商品一種又ハ商標壹箇コトニ各別ノ願書及明細書ヲ差出スヲ可シトアリ右兩條ヲ對照比考候ヘハ壹箇ノ商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ一種コトニ金五圓ヲ加フルニ準シ一種ノ商品ニ數箇ノ商標ヲ用ユル者ハ壹箇コトニ金五圓ヲ加ヘ上納ノ義御許可相成候哉

一二人以上同一又ハ相粉ハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用不相成義ハ條例第三條附スヘシ

但手數料ヲ返付スヘキ場合ニ於テハ同年大藏省第四十二號達ニ依ルベシ

一右手數料ハ登錄證ノ日附（讓與分與其他登錄證ニ裏書シタルモノハ其裏書ノ日附）ヲ以テ年度ヲ區分スヘシ

一收納セシ手數料ハ半ケ年ツヽ區分シ別紙離形ノ通明細表取調（一月七月）十五日限當省ヘ差出スベシ

明治何年七月ヨリ十二月マデ一月ヨリ六月マデ　商標登錄手數料明細表

（△印ハ朱書）

何府縣何國何區郡何町村何番地

△寄留ナレハ

當時何府縣何國何區郡何町村何番地寄留

姓名

△登錄證ノ月日但再渡ハ再渡シノ月日ヲ記スヘシ

| 年月日 | 商標 | 讓與 | 分與 | 改正 | 再渡 | 續用 | 兼用 | 轉用 | 手數料 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何年何月何日 | 一個 | | | | | | | 三種 | 貳拾五圓 |
| 何年何月何日 | 一個 | | | | | | 一種 | 一種 | 貳拾圓 |
| 何年何月何日 | | | | | | 一個 | | | 五圓 |
| 計 | 二個 | 一個 | | | | | 四種 | 一種 | 五拾圓 |

仝上

仝上

姓名

| 年月日 | 商標 | 讓與 | 分與 | 改正 | 再渡 | 續用 | 兼用 | 轉用 | 手數料 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何年何月何日 | 一個 | | | | | 一個 | 二種 | | 貳拾五圓 |
| 何年何月何日 | | 一個 | | 一個 | 一個 | | | 一種 | 貳拾六圓 |
| 計 | 二個 | | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 二種 | 一種 | 五十壹圓 |
| 總計 | 四個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 六個 | 二種 | 百〇壹圓 |

ニ明文有之然ル處若シ一人ニシテ用専ノ要點同一ナル左ノ圖ノ如キ商標ヲ一種ノ商品ニ専用出願スルトキハ壹箇ノ商標ト見做シ手數料金拾圓相納メサセ其ノ形狀使用ヲ明細書ニ記載シテ可然哉

○農商務省指令

十八年八月十三日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項　數箇ノ商標同一種ノ商品ニ使用スルモノタリ𪜈壹箇コトニ金拾圓相納ムヘシ

右之通候也

年　號　月　日　　長官姓名印

農商務卿殿

## ○第六節

商標登錄手數料及專賣免許料納期改正　十九年九月農商務省令第十號

明治十七年第十三號布達商標登錄願手續第二條第五條第七條ノ手數料及同十八年第五號布達賣專特許手續第二條第七條第十一條ノ免許料ハ出願ノ日ヨリ三日以内ニ納ムヘキコトニ改正ス

## ○第七節

登錄商標見本來觀時限　明治十八年十二月農商務省第二十五號告示

當省專賣特許所商標登錄所内ニ於テ衆庶ニ觀覽差許候專賣特許發明品ノ明細書圖面標本雛形及登錄商標見本來觀時限左ノ如ク相定ム

大祭日及休日ヲ除キ日々執務時限中ハ兩所掲示ノ來觀人心得ニ遵ヒ觀覽スルヲ許ス

右告示候事



第二項　本伺ニ示スカ如キ商標ハ專用ノ要點同一ナリトシテ一商標ヲ以テ論スヘキ限リニ無之同一種ノ商品ニ使用スルモノタリ𪜈孰レモ全形ヲ要點トシ別個ノ商標トシテ登錄願出ツヘシ

●埼玉縣伺　明治十七年十月三十日

商工輻湊地ニアル郡區役所又ハ戸長役場ニ於テ登錄商標見本衆庶ノ觀覽ニ供スヘキ樣本年御省第三十號ヲ以テ御達相成候處該商標見本製帳等ニ係ル一切ノ費金ハ地方稅ヨリ支出可致儀ニ候哉

○農商務省指令　十七年十一月七日

伺之趣郡區役所ノ分ハ地方稅戸長役場ノ分ハ町村費ヲ以テ支辨候儀ト可相心得事

●山梨縣伺　明治十七年十一月廿二日

本年十月御省第三拾號御達登錄商標見本觀覽所創設ニ關スル費用出途ノ儀ニ付埼玉縣伺ニ對シ郡區役所ノ分ハ地方稅戸長役場ノ分ハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ旨御指令相成候趣官報第四百拾二號ニ掲載有之候處抑右觀覽ノ場所ハ商工輻湊ノ地ニ設クルモ其之ヲ觀覽シテ便益ヲ得ルモノハ獨リ該町村人民ニ止マルニアラス廣ク最寄人民公衆ノ觀覽ニ供スヘキ主意ニ可有之然ルニ其費用獨リ該町村ニ於テ負擔セシムルハ頗ル穩當ヲ得サル樣相考ヘラレ候又郡區役所ノ分ハ其役所ノ常費ヨリ支辨セシムヘキカ各郡區皆ナ齊シク之ヲ要スルニアラサルヲ以テ彼是經濟ノ甘苦異同ヲ免カレサルノミナラス郡區役所ノ經費自ラ既ニ定額アリテ此等別段ノ費用ニ充ツヘキノ餘裕無之然レハ少シク其時期ヲ延ハシ來年度勸業費中ニ豫算ヲ設ケ之レヲ支辨センカ目下地方費多端ノ際ナルヲ以テ縣會ニ於テ之ヲ否決スルノ虞ナシトセス右ノ事情ナルヲ以テ地方稅又ハ町村費ヨリ支辨候事ハ甚難儀ニ有之殊ニ同一ノ費用ヲ地方稅町村費ノ兩途ヨリ支出スルハ

事理ニ於テモ穩當ヲ得サル樣考ヘラレ候間右費用ハ總テ御省ヨリ別途ニ御下渡相成候樣致度若シ御省ヨリ御下渡ノ御詮議難相成且地方稅又町村費ヨリモ支辨ノ都合ヲ得サルトキハ到底之ヲ設置スルノ道無之此場合ニ於テハ不得止當分該觀覽所ハ之ヲ設置セサルモ妨ケナキ儀ニ候哉

○農商務省指令　十七年十二月十一日

伺之前趣段別途下渡之儀ハ難及詮議後段ハ當省本年第三十號達之通可相心得事

●千葉縣伺　明治十八年一月八日

本年御省第三拾號登錄商標見本觀覽所商工輻湊ノ地ニ設置云々右費用ノ儀ニ付嚮ニ埼玉縣ヘ御指令ノ次第モ有之候處該觀覽所必要ノ地ナルヲ以テ特ニ人民ヨリ一切ノ費金ヲ郡衙等ヘ献納シ居村戶長役場若クハ便宜ノ地ニ觀覽所設置等ノ義出願候場合ニ於テハ御裁可可相成候儀ニ有之候哉此段相伺候也

○農商務省指令　伺之通　十八年一月十七日

# 第二類　〔勸業〕

## 第一章　共進會

### 第一節　農商工奬勵ノ儀ニ付地方官心得　十四年七月農商務省第七號達

●第一

○第一

農商工奬勵ノ儀ニ付テハ官或ハ之ニ率先シ事業ヲ開設シ或ハ其實利ヲ指示スル等從來區々ノ方法ニ涉リ之ヲ誘導セリト雖モ今ヤ事業漸ク開ケ人々自奮之ニ從事スルノ時ニ至テハ人民ヲシテ漫リニ依賴スルノ思念ヲ脫シ益其自奮ノ氣象ヲ擴充セシメサルヘカラス故ニ專ラ法規ニ據リ公平不偏洽ク之ヲ保護シ詳カニ地方ノ實況ヲ察シ一般ノ便益ヲ圖リ大ニ之ヲ奬勵スルハ管理上ノ要務ニ候條地方廳ニ於テモ此趣旨ニ基キ施行可致此旨相達候事

### 第二節　勸業ノ爲資本金貸下金有之事業監督通規　明治十六年三月農商務省第一號達

○第二

勸業ノ爲資本金貸下金有之事業ノ監督通規左ノ通相定候條尙實際周到ノ監督ハ各地方ニ於テ適宜允當ニ處分スヘシ此旨相達候事

第一條　貸下金有之事業ハ總テ其指令ノ趣旨ニ基キ監督スヘシ

第二條　貸下金有之事業ハ少クモ年兩度主任官實地ヲ監査シ其得失成敗ニ篤ク注意スヘシ

其實況ハ左ノ雛形ニ據リ每半年分ヲ七月及翌年一月ニ取束開申スヘシ

（明治十八年四月農商務省第十八號達ヲ以改正）

第三條　貸下金拜借人怠慢ニシテ主願ノ事業ヲ等閑ニ附スルカ又ハ事業外ニ貸下金ヲ支用セシトキハ至急實況ヲ取調開申スヘシ

第四條　第三條ノ場合ノ外事業上ノ障碍生ルトキハ實地ヲ調査シテ其事由及維持ノ方法若クハ意見ヲ具シ至急開申スヘシ

第五條　臨時當省官員ヲ派遣シテ實地ノ景況ヲ檢査セシムルコアルヘシ

（十八年四月十八號達ヲ以テ追加）

何縣何國何郡何村町何々場或ハ何社何々事業　何縣何國何郡何村町　社長　何某　社員　何拾何名

資本金　若干圓　（或）士族總代何某外何名　何年何月拜借

但何年何月ヨリ無利（有利）何年置據何年何月ヨリ向何ケ年賦返納

| 返納金高 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 年次 | 元金 | 利子 | 合計 | 事故有之延期 | |
| 何年何月日 | 若干圓 | 若干圓 | 若干圓 | 事由 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 無之 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |



| 之譯 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 未濟 | 金若干圓 | | | | |

表面ニ掲クル處ハ官私合資ナルモノハ合同シテ掲クヘシ

何年何月何日開場　資本金若干圓　拜借金若干　社金或ハ私金若干

| 年次 | 仕上ケ高 | 同元價 | 純益 | 損 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 開場初年明治何年上半季 | 若干 | 若干圓 | 若干圓 | 若干圓或ハ何々付ナシ | |
| 開場何年月明治何年下半季 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |

但現今ノ景況ヲ何年何半期トシ及ヒ將來ノ見込ヲ各別ニ記載シテ本表ニ續クヘシ

## ○第三節　繭絲織物陶漆器共進會規則

十六年十一月第三十五號布達

本年七月第二十七號ヲ以テ及布達候繭絲織物陶漆器共進會規則別冊ノ通之ヲ定ム

右布達候事

繭絲織物陶漆器共進會規則

第一章　綱領

第一條　本會ハ明治十八年四月一日ヨリ六月二十日迄東京上野公園内ニ於テ開クヘシ

第二條　本會ノ出品ハ四區ニ分ツ即チ左ノ如シ

第一區　繭　　第二區　絲

第一類　生絲　　第二類　器械取木棉絲

第三區　織物　　第一類　絹織物　　第二類　木棉織物　　第三類　麻

第四區　陶漆器　　第一類　陶飲食器　　第二類　漆飲食器

第三條　出品ハ明治十七年一月以後ノ内國製產物ニ限ルモノトス

但比較ノ爲メ外國品及ヒ該年度以前ノ製產物ヲ添出スルハ妨ケナシ

第四條　出品數量ノ制限左ノ如シ

繭　一種ニ付一升ヨリ三升迄

絲　生絲一種ニ付一斤ヨリ百斤迄
　　器械取木綿絲一種ニ付十綛ヨリ一九迄

織物一種ニ付反物ハ二反ヨリ三反迄四物ハ一四ヨリ二匹迄一枚物ハ二枚ヨリ三枚迄

陶漆器　陶飲食器一種ニ付揃物ハ一揃ヨリ二揃迄一箇物ハ二箇ヨリ三箇迄
　　漆飲食器同前

第五條　總テ出品セント欲スル者ハ其管轄廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
管轄廳ニ於テハ別紙書式第一號ニ倣ヒ出品目錄二通ヲ製シ明治十七年十二月限リ本會事務所ヘ差出スヘシ

第六條　出品遞送費及ヒ陳列費又ハ飾箱飾臺等ハ出品主ノ自辨タルヘシ
但飾箱ハ都合ニヨリ有合ノ分ヲ貸與スルコトアルヘシ

第七條　出品ハ事務所ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖モ萬一盜難火災風震等避クヘカラサル事故ニテ破損紛失スルトキハ其責ニ任セサルモノトス

## 第二章　褒賞

第八條　出品審査ノ上優等ノモノヘハ褒賞ヲ授與ス其等級左ノ如シ
一等賞　二等賞　三等賞　四等賞　五等賞　六等賞
七等賞

第九條　一人ニテ數類ノ出品ヲナシ每類優等ナル時ハ各相當ノ褒賞ヲ與フヘシ
但出品主ニ非サルモ出品ニ對シテ特別ノ功勞アルモノハ既往現在ヲ問ハス褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第十條　褒賞授與式ハ六月十日ヲ以テ執行スヘシ

## 第三章　審査

第十一條　審査官ハ出品ヲ審査シ其優劣ヲ判シ褒賞ノ等級ヲ擬シ薦告文ヲ作リ之ヲ審査官長ニ差出スヘシ審査官長ハ幹事ト商議按定シテ之ヲ農商務卿ニ差出シ以テ其認可ヲ請フヘシ

第十二條　出品主ニシテ審査官ニ選マレタル者ハ其出品ノ審査ニ加フルヲ得ス

第十三條　審査ハ四月十日ニ始メ五月三十日ニ終ルモノトス

## 第四章　出品主

第十四條　繭出品主ハ別紙書式第二號生絲出品主ハ第三號其他出品主ハ第四號ニ倣ヒ出品解說一通ヲ製シ管轄廳ヲ經テ明治十八年二月限リ事務所ニ差出スヘシ

第十五條　繭出品主ハ年內蠶卵紙一枚以上ヲ飼養スル者生絲出品主ハ年內五斤以上ヲ製スル者ニ限ルヘシ

第十六條　出品主ハ都合ニ因リ其出品ニ對シ解說ヲナシ得ル者ヲ以テ代理人トナシ或ハ數人協同シテ總代人ヲ出スモ妨ケナシ

第十七條　出品ノ陳列ハ二月二十日ニ始メ三月二十八日ニ終ルモノ

トス故ニ出品主ハ成ルヘク二月二十日以前其出品ヲ各自便宜ニ從ヒ東京ニ遞送シ置キ其陳列ニ從事スヘシ

但陳列ニ就テハ都テ本會掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第十八條　出品主ハ事務所ヨリ下付スル所ノ小札ニ其住所氏名等ヲ記シ每品ニ添附スヘシ

但非賣品賣買約定濟附札モ事務所ヨリ下付スヘシ

第十九條　出品賣買約束濟ノモノハ其出品ニ賣買約定濟ノ札ヲ添附スヘシ

但其物品ハ閉會後ニ非サレハ搬出スルヲ許サス

第二十條　出品同種ノ物品ニシテ內外博覽會或ハ共進會等ニ於テ賞牌褒狀等ヲ得タル者ハ其摸形又ハ寫圖ヲ掲ケ置クヘシ

第二十一條　出品主ハ閉會後十五日限リ其出品ヲ場外ニ搬出スヘシ

第二十二條　出品主ハ事務所ヨリ下付スル所ノ門鑑ヲ携帶シ會場ニ出入スヘシ

## 第五章　來觀人

第二十三條　會場開閉時間左ノ如シ尤臨時來觀人ノ入場ヲ差止ムルコトアルヘシ

四月一日ヨリ　同十五日迄午前第九時開場午後第四時閉場

四月十六日ヨリ六月廿日迄午前第八時開場午後第五時閉場

第二十四條　來觀人ハ入場ノ節入場券一枚ヲ門衞ニ渡スヘシ

但滿五歲以下ノ幼者ハ此限ニアラス

第二十五條　入場券料ハ一枚金二錢トス

第二十六條　入場券ヲ持參スル者ト雖トモ狂疾或ハ爛醉者ト認ムル時ハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラシムルコトアルヘシ

第二十七條　來觀人ハ出品主或ハ看護人ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ出品ニ手ヲ觸ルヘカラス

## 第六章　賣店

第二十八條　出品主（東京府區內ノ者ヲ除ク）ニシテ賣店建設ヲ望ム者ハ其所用ノ地坪家作等ヲ取調ヘ之ニ繪圖ヲ添ヘ明治十七年十二月限リ管轄廳ヲ經テ事務所ヘ願出ツヘシ

但本會ノ都合ニヨリ許可セサルコトアルヘシ

第二十九條　賣店建設地ハ會場外ニ於テ無稅貸與スヘキニ付總テ本會掛員ノ指揮ニ從ヒ建設スヘシ

但建設ニ關スル一切ノ費用ハ出品主ノ自辨タルヘシ

第三十條　賣品ハ出品ト同種ノ物ニ限ルヘシ

但賣品遞送ノ節ハ出品ト區別ヲ立テ混交セシムヘカラス

第三十一條　月曜日毎ニ一周間ノ賣上ケ品數金額等ヲ事務所ニ届出ツヘシ

第三十二條　賣店ハ開會當日ヨリ閉會後十日迄開クコトヲ許ス

但閉店後三十日限リ取拂ヒ跡地ヲ元ノ如ク取直シ返納スヘシ

第何區第何類　（用紙十三行官用罫紙）

書式第一號

出品目錄

| 品名 | 數量 | 容積 | 住所 | 姓名 |
|---|---|---|---|---|
| 何品 | 何斤何匁何區何段何枚何打何筋何張何揃何組何個ト カ | 長何尺巾何尺ト カ何尺四方ト カ | 何府縣下何國何郡何町何區何村 | 何之誰 |



前書之通出品相違無之候也

年　月　日　　府縣委員　官姓名印

繭絲織物陶漆器共進會　御中　（用紙半紙）

書式第二號

| 出品 | 主 | 何府縣下何國何郡何區何町何村何番地族籍職業　何之誰 |
|---|---|---|
| 名稱 | 此區ヘハ繭ノ黄白及ヒ通稱ヲ記スヘシ（譬ヘハ赤引鬼繭及昔姫蠶等ノ類） | |
| 出品高 | 此區ヘハ出品ノ數量ヲ記スヘシ（譬ヘハ何升） | |
| 桑田培養ノ品種 | 桑 | 此項ヘハ桑樹ノ種類及ヒ桑田培養等ノコトヲ左ノ表面ノ區毎ニ記スヘシ |
| 桑田一反歩ニ付培養ノ量及ヒ品種 | 酒粕何百目油粕何百目ト カ | 市平ト カ十文字ト カコボレト カ |

繭解說

| | |
|---|---|
| 培養ノ季節 | 何月何日頃トカ |
| 桑苗仕立方 | 根分ケトカ枝プセトカ實マキトカ |
| 桑樹仕立方 | 苅桑トカ二尺上ヨリ株トカ木立テトカ |
| 一反歩植樹ノ數 | 何本トカ何株トカ<br>植木ヨリ五ケ年目一反ノ桑ノ量 |
| | 何駄トカ何貫トカ<br>桑木ヨリ正葉ヲ得ル分合 |
| 所有桑園ノ段別 | 凡何分位 |
| | 何町何段歩 |
| 桑ノ相場 | 何(駄貫)ニ付何圓何錢トカ |
| 箇目 年度 | 拾五年 拾六年 拾七年 |
| | 仝 上 仝 上 |

## 養蠶法 此項ヘハ左ノ如ク區毎ニ記スヘシ

| | |
|---|---|
| 原種ノ紙數 | 何拾何枚 |
| 成繭ノ數量 | 上繭何石何斗 玉繭仝上 屑繭仝上 |



| | |
|---|---|
| 掃立ヨリ掻落シ迄ノ日數 | 何十何日 |
| 原紙一枚ニ付庭起ノ籠數又ハ覆坐ノ數 | 籠ハ長何尺横何尺 何十籠藁坐圓徑何尺何十枚 |
| 育法 | 温暖育トカ清涼育トカ |
| 熟蠶ノ扱ヒ方 | 拾ヒ揚ケトカ熟蠶ニマブシスルトカ |
| 原種一枚ニ付成繭迄平均人員 | 何人何分 |
| 原種一枚ニ付成繭迄平均ノ費用 | 何圓何錢 |
| 前同斷蚕桑ノ目方 | 何駄トカ何貫目トカ |
| 原種 | 此項ヘハ蠶卵紙ノ由來及ヒ保存ノ方法ヲ記スヘシ<br>(譬ヘハ何年ニ何國何ノ誰ノ卵紙ヲ用ヒ何年ヨリ自製ノ卵紙トス或ハ年々何國何ノ誰製種ヲ用フトカ又保存方ハ秋風ノ起ルヲ俟テ桐ノ箱ニ入ルトカ寒中何日頃水ニ浸シ發生ノ頃ハ何月何日頃箱ノ中ヨリ取出シ上下掛ケ換ヘ置云々ノ類) |
| 養蠶ノ數 | 〔此項ニハ出品ノ繭ニ拘ハラス出品人何程ノ養蠶セシヲ左ノ表面ノ區毎ニ記ス尤モ製絲種ノ分ヲモ加ヘテ販賣及ヒ費用トモ總計ヲ記スヘシ |
| 箇目 年度 | 十五年 十六年 十七年 |
| 成繭ノ石數 | 何石何斗 仝 上 仝 上 |

| | |
|---|---|
| 販賣代價 | 何百何拾何圓　仝　上　仝　上 |
| 費用合計 | 何拾何圓　仝　上　仝　上 |

檢査表アルモノハ之ヲ添フヘシ

養蠶方法ノ沿革及ヒ出品主履歴

此項ヘハ創業ヨリ現今迄ノ沿革盛衰發明及ヒ共進會又ハ博覽會等ニ於テ受賞云々ヲ詳記スヘシ

前書解説之件々相違無之候也

年　月　日

出品主　何之誰　印

前書之通相違無之依テ保証仕候也

何府縣下何國何郡區何町村區長或ハ戸長　何之誰　印

府縣委員官姓名印

（用紙半紙）

生絲解説

出品主　何府縣下何國何郡區何町村何番地族籍職業　何之誰





書式第三號

| 名稱 | |
|---|---|
| 出品高 | 此區ヘハ出品ノ數量ヲ記スヘシ（何斤） |
| 供用繭 | 此區ヘハ出品ノ生絲ニ用ヒタル繭ノ種類出所等ヲ記スヘシ（譬ヘハ何州何郡何ノ誰製造ノ繭或ハ手作） |
| 器械製絲法 | 此項ヘハ製絲ノ順序ヲ記スヘシ則左ノ表面ノ如シ |
| 運轉ノ力 | 蒸氣ナレハ何馬力水車ナレハ車ノ圓徑何尺人力ナレハ何人 |
| 湯ノ沸シ方 | 蒸氣ナレハ水何石入焚火炭火 |
| 器械所 | 長何間横何間 |
| 製絲釜數 | 何百何十 |
| 口出シ人 | 自分ニテ口ヲ出ストカ釜毎ニ一人ツヽ何人トカ二タ釜一人ツヽ何人トカ |
| 揚ケ返シ人 | 直揚ケニ付ナシトカ何十何人トカ |
| 現業役員 | 教師何人撿査人何人絲結何人繭配何人トカ |
| 口出シ蕃 | カルカヤノ根トカモロコシガラトカ舶來品トカ |

| | |
|---|---|
| 大篋ノ寸法 | 何尺何寸廻リ |
| 四、百回「デニール」 | 一號ハ十二トカ二號ハ幾ツ三號ハ幾ツ |

坐繰製絲法　則チ左ノ表面ノ如シ

| | |
|---|---|
| 工女ノ人員 | 八人トカ十八トカ但一家ニ集ル人數ヲ云 |
| 口出シ等 | モロコシガラトカ竹箸ヲ代用トカ |
| 揭ケ篋ノ寸法 | 何尺何寸廻リ |

製絲計算　此項ヘハ計算ニ係ルコトヲ記スヘシ

| 箇目／年度 | 十五年 | 十六年 | 十七年 |
|---|---|---|---|
| 元繭代一圓ニ付絲目 | 何十何匁取 | 仝 | 仝 |
| 使役男女ノ數 | 男何人 | 仝 | 仝 |
| | 女何人 | 仝 | 仝 |
| 使役男女總計一ケ月ノ給料 | 男何圓 | 仝 | 仝 |
| | 女何圓 | 仝 | 仝 |
| 一等二等三等工女一ケ月ノ給料一人ニ付 | 一等何圓 | 仝 | 仝 |
| | 二等何圓 | 仝 | 仝 |
| | 三等何圓 | 仝 | 仝 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 生糸百斤ニ係ル製造入費 | 何百何拾圓 | 仝 | 仝 | 仝 |
| 新繭ヨリ新繭迄一ケ年ノ製絲高 | 何千何百斤 | 仝 | 仝 | 仝 |
| 一周年就業ノ日數 | 何百日 | 仝 | 仝 | 仝 |
| 賣上代價 | 何千何百圓 | 仝 | 仝 | 仝 |
| 賣先 | 横濱カ桐生カ西京カ或ハ歐米直賣カ | 仝 | 仝 | 仝 |
| 熨斗絲賣上代價 | 何百何拾圓 | 仝 | 仝 | 仝 |

商標アル者ハ一葉ヲ附シ差出スヘシ

## 業務沿革總說　附出品主履歷

此項ヘハ開業ヨリ現今迄ノ沿革盛衰ヲ記スヘシ

譬ヘハ明治何年何月社中幾名相謀リ上州富岡ノ蒸氣機械或ハ奥州二本松ノ製絲器械ヲ摸シ水車ヲ用ヒ器械ヲ裝置ス當初ハ工人何名ニシテ其技業熟練ナラサリシカ何年某氏ノ教授ニ依リ大ニ進歩シ翌何年ハ百斤ノ價格何程ニ販賣シ得ル繰絲ヲ製スルニ至ル又何年何ノ誰發明ヲ以テ器械ヲ改補シ或ハ加巧シ一層便益ヲ得社中ノ利益月ヲ逐テ增加シ現社員何名ニ至ル尚明年ニ至リ何々ノ目的ヲ以盛業ヲ圖ル云々又起業ノ目的ハ社中某ノ資本ヲ專用シ以テ本業

ヲ營マント謀リシニ何年何月某何々ノ事故ニ係リテ脫社シ或ハ何年ハ非常ノ乾水ニテ水車ノ運轉ヲ中止シ甚シキ損毛ヲ招キ困難ヲ極ムルニ際シ社中某ノ奮發或ハ誰ノ助力ヲ以テ何年ニ至リ漸ク回復スルヲ得爾來云々又余カ家代々製絲ヲ以テ業トスル既ニ何年其間何世ニ於テ何々ノ發明ヲ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス爾來何年ノ頃何々ノ事故ニ依テ一回衰狀ヲ呈シ何年ニ至リ何々ノ方策或ハ勉勵ヲ以テ回復シ現今何々ノ景況云々又博覽會若クハ共進會ニ於テ褒賞ヲ受ケシ事アラハ併記スヘシ（以上ノ例文ニ準據シ文章ノ巧拙ニ拘ハラス成丈詳細ニ記スヘシ）

前書解說ノ件々相違無之候也

年　月　日

出品主　何府縣下何國郡區何町村八戶長何之誰印

前書之通相違無之依テ保證仕候也

府縣委員官姓名印

（用紙半紙）

第何區第何類

出品解說

書式第四號

| | |
|---|---|
| 出品主 | 何府縣下何國何郡區何町村何番地族籍職業何之誰 |
| 出品 | 何品 |
| 數量 | 何品ノ數量 |
| 代價 | 賣價及ヒ原價（幾個以上ハ賣價幾割ヲ減スルノ類ハ其割合ヲモ記スヘシ） |
| 產地 | 府縣國郡區町村番地 |
| 工場 | 地所建物ノ廣狹等（自宅ニテ製造シ別ニ工場ヲ設ケサル者ハ本項ヲ省キテ可ナリ） |
| 器械 | 多寡大小馬力用法等（製作ノ地名人名及ヒ購入代價ノ明カナルモノハ之ヲ記スヘシ） |
| 人夫 | 職工ノ多寡男女及ヒ給料等（職工ノ別ニ組員等アラハ之ヲ記スヘシ） |
| 原料 | 種類產地及ヒ購入代價等（精煉調和等ヲ要スルモノハ其手續ヲ記スヘシ） |
| 費材 | 薪木石炭等ノ區別及ヒ其購入代價費消高等 |
| 製法 | 製造上一切ノ手續（殊ニ製造ノ時數量及ヒ原料使用ノ割合等ヲ詳カニ記スヘシ但秘法ハ記スルヲ要セス） |
| 產額 | 開業ノ時ヨリ出品ノ時迄每年ノ製造高 |

| 販路 | 賣捌先キノ地方及ヒ輸送額(外國ヘ輸出スルモノハ成ルヘク其輸出高ヲ記スヘシ) |
|---|---|
| 傳記 | 開業年月日及ヒ辛勞巧績其他經歷沿革等(古人ト雖モ出品ニ對シテ功勞等アル者ハ之ヲ記スヘシ) |

前書解説ノ件々相違無之候也

年　月　日　　出品主　何　之　誰　印

前書之通相違無之依テ保證仕候也

何府縣下何國何郡何町村何區長或戸長　何　之　誰　印

府縣委員官　姓　名　印

## ○第四節　漆器共進會出品主心得

明治十八年繭絲織物陶漆器共進會出品心得左ノ通相定候條此旨告示

候事　繭絲織物陶漆器共進會出品主心得

明治十七年五月　農商務省第四號告示

此心得ハ明治十六年十一月五日第三拾五號を以て布達ありし本會規則に基き其意を弘め其解し難きを明らかしめたるものなり讀者これを諒せよ

第一項　本會ハ各製産者ゞ平生の用意より生ずる結果を對照比較せんとするものなれとも出品主ハ宜く此意を體し本會は爲ふ故に特別の物品を作爲す可からす

第二項　製産者とハ自から物品を製造産育する者のみに限らず官衙を除くの外都て人をして物品を製造産育せしむる者も亦製産者なりとす

第三項　繭糸出品ハ桑繭山繭柞繭に限るべく生絲の出品も亦此三種より成りたるものに限るべし

第四項　木綿絲ハ西洋器械にて製したる者及ひ近時流行のがら器械と唱ふる新式器械類にて製したるものに出品すべし從來の紡車にて製したるものハ出品するを得べからず

第五項　交織物の出品ハ絹綿麻毛の四種を彼此取交て織りたるものに限るべし

第六項　陶漆飲食器ハ庖厨具を除くの外膳椀鉢皿箸杯急須土瓶銚子德利杯洗湯沿水瓶飯櫃食卓盃茶托廣蓋小蓋大平重箱茶壺水差茶棚菓子器辨當箱等都て飲食の時に使用する者を出品すべし

第七項　庖厨具もろの種類によりてハ時として飲食器の用を兼ぬるものあり例へハ鍋ハ庖厨具なりと雖ども世人往々之を飲食の時に

使用するゞ如し此等の類ハ飲食器と看做し出品して妨げゐし、

第八項　乙ゞ甲の織物ゐ模様を染め若くハ紋形を付け若くハ漂白の工を加へたるもの等ハ乙之を出品するを得べく甲の陶器に畫附を爲し其漆器に蒔畫を施したるもの等も乙之を出品するを得べし

第九項　外國の織物に模様を染め若くハ紋形を付け及ひ其陶器ゐ畫付を爲したるもの等ハ本會規則第三條但書例に從ふへし但外國の棉を以て製したる絲其絲を以て製したる織物其顔料を以て畫付を爲したる陶器等ハ一般の出品ゐ異ゐるてとゐし

第十項　凡て比較品ハ或ハ出品と種類を異にするも妨げゐし又工場及び其裝置の雛形寫圖製造用の器具製品の原料等ハ參考の爲め之を出陳するを得へし但二者共に形体過大ゐるものを出品すべからす且多數多量を要せす

第十一項　會社組合の出品ハ必其會社の名其組合の名を以てすへし又數人の名を以てする出品ハ合同の資本より成りたるものゐ限るへし但本會の爲め一時資本を合同するを許さず

第十二項　出品一種に就ての數量に制限あるてとハ本會規則第四條に明らにして已に公衆の知る所ゐるべきも其一種の意義に至りてハ或ハ未解釋し得ざる者ゐしと言ふべからす因てろの説明を左に擧く

繭　白繭、黄繭、赤熟、鬼繭、又昔、青熟等ハ各一種とす

生絲　結束、元質、製法等の異ゐるものハ各一種とす

器械取木棉絲　番號等の異ゐるものハ各一種とす

織物　色合、模様、縞柄、用途等の異ゐるものハ各一種とす

陶飲食器　色合、模様形、体等の異ゐるものハ各一種とす

漆飲食器　同前

畢

## ○第五節

明治十八年繭絲織物陶漆器共進會地方官心得　繭絲織物陶漆器共進會開設候ニ付テハ地方官心得左之通相定候條此旨相達候事　明治十六年十一月　農商務省第十五號達

繭絲織物陶漆器共進會地方官心得

第一條　本會開設ノ旨趣ハ務メテ有益ニシテ實用ニ適スル物品ノ改進增殖ヲ計リ内需用ヲ足シ外輸出ヲ盛ニスルニ在リ故ニ觀美虛飾ヲ主トスル物品ハ之ヲ出陳セシムヘカラス

第二條　府縣廳ニ於テハ本會ノ爲メニ委員ヲ設ケテ出品其他ノ事務

ヲ掌管セシムヘシ但委員ノ姓名ハ豫テ届出置ヘシ

第三條　府縣委員ハ遅クモ明治十八年一月三十一日迄ニ上京シテ陳列等ノ事ヲ斡旋スヘシ

第四條　陳列場所ハ出品目錄ニ照シ豫シメ坪數ヲ定メ每府縣ニ割與スヘシト雖モ實際ノ都合ニヨリ增減伸縮スルコトアルヘシ

第五條　出品目錄ハ會場地坪割當ノ都合アリ又出品解說ハ審査ニ必用ナルヲ以テ孰レモ其差出期限ヲ誤ルヘカラス

第六條　出品目錄及ヒ出品解說ハ一類每ニ調製シ差出スヘシ

第七條　本會ニ關スル布達等ニ陶ト稱シタルハ燒物一般ヲ指シタルモノナルカ故ニ出品目錄及ヒ出品解說ニ於テハ固ヨリ土燒石燒等ノ區別ヲ記スヘシ

第八條　出品主ニハ成ルヘク本人ノ出京ヲ勸メ各地ノ出品ヲ實際ニ比較シ將來目的ヲ立ツルノ裨益ヲ得セシムヘシ

第九條　賣店建築ハ數人合併スルモ妨ケナシ尤モ合併ハ管轄ノ異同ヲ問ハサルモノトス

## ○第六節　博覽會共進會報告書式　十九年五月農商務省第三號訓令

各地方ニ於テ博覽會共進會其他之ニ類似ノ會（褒賞ヲ付與スルモノ）ヲ開設シタルトキハ左ノ書式ニ準シ一周年（會計年度ニ依ル）分取纏メ四月十日限リ報告スヘシ尤聯合共進會ハ其褒賞ヲ請求スルトキ該會規則ヲ添付シ其景況ハ閉會後直ニ報告スヘシ

明治何年官設何會報告書

會場地名　國郡町村名（何博覽會何共進會ト記スヘシ（譬ヘハ水產博覽會繭絲共進會ト云フカ如シ）其ナキモノハ單ニ博覽會共進會物產會展覽會品評會ト記スヘシ）

會名　何廳府縣或ハ何會社或ハ何某

會主

開場　何月何日

褒賞授與式　何月何日

出品區域　何府縣聯合或ハ一管下一般或ハ何區郡何町村聯合

出品人員　何人

出品員數　若干

出品總價　何圓錢

出品種類　農產水產或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農產水產ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ

出品賣數　若干

出品賣價總額　何圓錢

褒賞總人員　何人
褒賞等級別　一等何人二等何人三等何人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人
褒賞々與物件　杯或ハ牌或ハ何物品或ハ金圓（譬ヘハ一等何物品或ハ金何圓二等何々）等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
來觀人員　何人
通券價格　何錢（日曜日平日等ノ區別アルハ各別ニ記スヘシ）
通券收額　何圓錢
會費總額　何圓錢
會費區別　地方税何圓通券料何圓或ハ醵金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
本會景況云々
（譬ヘハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著ルク改良進歩セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農産物水産物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ掲ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ）

右報告候也

## ○第七節　蠶種檢査規則

明治十九年八月農商務省令第九號

蠶種微粒子病（一名黑痣病）豫防ノ爲蠶種檢査規則左ノ通相定メ原種ノ檢査ハ明治二十年檢査期ヨリ施行シ製絲用種ノ檢査ハ同二十一年檢査期ヨリ施行ス

蠶種檢査規則

第一條　凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第二條　蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其檢査ヲ受クヘシ

第三條　檢査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第四條　蠶種檢査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ

但地方ノ狀況ニ由リ巡廻檢査ヲナスモ妨ケナシ

第五條　蠶種檢査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ

但檢査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　春蠶種ノ檢査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ檢査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條　蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ檢査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ

第八條　蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種（販賣用種ノ製造ニ用フルモノヲ云フ）ト製絲用種トニ區別シテ檢査所ニ差出スヘシ

第九條　病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ檢査證印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス

第十條　廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條　蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢業スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルトキハ第一條ニ據ルヘシ

第十二條　第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

## ○第八節　全取扱手續

十九年八月農商務省訓令第十四號

當省令第九號蠶種檢査規則取扱手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

蠶種檢査規則取扱手續

第一項　蠶種檢査規則第一條ニ據リ下付スヘキ鑑札ハ製造鑑札ト販賣鑑札トニ區別スヘシ

第二項　販賣鑑札ハ輕便ナルモノヲ用ヒ販賣ノ爲外出スル時ハ之ヲ携帶セシムヘシ

第三項　檢査所ハ可成郡役所戸長役場等ノ一部ヲ以テ之ニ充テ經費ノ節減ヲ旨トスヘシ

第四項　蠶種ノ產額多カラスシテ製造者各地ニ散在スル地方ニ於テハ蠶種檢査規則第四條但書ニ據リ便宜巡廻檢査ノ法ヲ設クヘシ

第五項　檢査員ハ蠶業ニ熟達セルモノヲ選用シ其氏名及ヒ履歷ヲ當省ニ届出ツヘシ

第六項　原種ヲ檢査スルニハ蠶種ノ全面ヲ撫摩シテ卵子百粒許ヲ取リ其中ヨリ惡キモノ五十粒ヲ撰ヒテ之ヲ十分シ其一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ盛リ苛性加里ノ稀薄液一滴ヲ加ヘテ能ク之ヲ磨碎シ其液ヲ顯微鏡ニ照メ四隅及ヒ中央ヲ丁寧ニ視察シ（之ヲ一同ノ視察トス）毎鏡面微粒子

ノ有無ヲ檢シ左表ニ據リ病毒ノ歩合ヲ定ムヘシ

| 視察中微粒子ヲ目撃セル回數 | 百分中ノ歩合 | 原種 | 製絲用種 |
|---|---|---|---|
| 一回 | 二、 | 使用ニ適スルモノ | |
| 二回 | 四、 | | |
| 三回 | 六、 | 以下廢棄スヘキモノ | |
| 四回 | 八、 | | 使用ニ適スルモノ |
| 五回 | 一〇、 | | |
| 六回 | 一二、 | | |
| 七回 | 一四、 | | |
| 八回 | 一六、 | | 以下廢棄スヘキモノ |
| 九回 | 一八、 | | |
| 十回 | 二〇、 | | |

病毒ノ歩合ヲ定ムルニハ視察中微粒子ヲ目撃セル數ニ二ヲ乘シ以テ百分中ノ歩合トナスヘシ

第七項　製絲用種ハ同種類中ニ於テ病毒多シト認ムルモノヨリ順次

第六項　檢査ヲ爲シ病毒百分ノ十五以内ノモノヲ檢出スルニ至リテ止ムヘシ

第八項　顯微鏡ハ五百倍以上ノモノヲ用フヘシ

第九項　檢査證印及ヒ廢棄證印ヲ定ムルコト左ノ如シ

原種檢査證印

圓形徑一寸五分　文字（某府廳縣某檢査所原種檢査之證）

製絲用種檢査證印

楕圓形縱一寸八分横一寸　文字（某府廳縣某檢査所製絲用種檢査之證）

廢棄證印

長方形縱一寸横五分　文字（廢棄之證）

第十項　各檢査所毎年檢査ノ成蹟ハ左ノ表式ニ準シ翌年二月限リ當省ニ報告スヘシ

| 檢査所位置 | | 檢査人員 | 檢査日數 | 檢受人員 | 原種 | | 改良框製ノ分 | 製絲用種 | 檢査費用 | 事由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 郡名 | | | | | 檢査證印ノ分 | 廢棄證印ノ分 | | 檢査證印ノ分 | 廢棄證印ノ分 | |
| 何郡 | | | | | | | | | | |
| 何郡ノ内何ケ村 | | | | | | | | | | |

（春蠶種夏蠶種秋蠶種ハ各別表トナスヘシ）

## ●第二章　牛馬

### ○第一節　牛馬賣買規則

明治五年十一月第三百三十號布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管內共區々ノ取計無之樣可致事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月　　大藏省

規則

第一條　各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但シ壹鼻綱ハ牛馬共七四ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七四以內二枚ヲ所持スル者ハ十四四ニ限ル可シ其餘准之可申事

第二條　（明治七年四月二十日第四十五號布告ヲ以テ左ノ通改正ス）一免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅致シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條　免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハヽ事實取調鑑札相渡可申事

第四條　免許鑑札壹枚ニ付一ケ年稅金一圓上納可致事

（明治八年七月七日第百十五號布告ヲ以テ但書左ノ通リ改正ス）

但シ右稅金ハ每年二月八月兩度ニ半額宛各管廳ヘ取立租稅寮ヘ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致事

第五條　免許鑑札燒印並ニ押切判ハ雛形ノ通リ其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事

但シ鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面詳細取調右鑑札印鑑相添ヘ當省ヘ可差出事

第六條　右樣取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛

明治三年三月十四日民部省達牛馬賣買渡世ノ者ニ鑑札ヲ下附シ五年三百三十號布告ヲ以テ廢ス

馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條　取上牛馬拂代並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條　此規則施行候ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

（明治七年十二月三日第百三十一號布告ヲ以テ左ノ通リ第九條ヲ追加ス）

第九條　一免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受ケ賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照ラシ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ通規則相定候事

壬申十月

大藏省

▲參看　牛馬賣買規則第二條（五年十一月第三百三十號）

一免許鑑札願受候後事故アリテ數月ヲ不歷休業致シ候共一ケ年分ノ稅上納可致事

但休業ノ者ハ毎年二月ヲ期シ免許鑑札返納可致事

仝上第四條但書

但右稅金ハ毎年二月中各府縣廳ヘ取立三月中迄ニ當省ヘ上納可致候尤二月以後免許候者ハ其都度取立直ク ニ上納可致候且明細帳ノ儀ハ各管内一ケ年取束十二月中迄ニ差出可申事

（六年五月第百六十三號布告）

## 養豪

○第二節

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候所溫暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行シ往々人生ノ傷害ヲ釀シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豪養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退豪養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ豪養不相成候尤乳汁搾取ノタメ豪養候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

## 種牡牛馬取締方法

○第三節

（十八年一月農商務省第一號達）

種畜條例發布相成候マテ左ノ項目ニ據リ種牡牛馬取締方法適宜相設可屆出此旨相達候事

但種牡牛馬ハ左ノ雛形ニ據リ壹箇年分取纏メ翌年二月十五日限リ農務局ヘ報告スヘシ

第一　牛ハ滿二才以上滿十才以下ノモノヲ用フヘシ但洋種ハ十才以

上ニ至ルモ妨ナシ

第二　馬ハ滿三才以上滿十六才以下ノモノヲ用フヘシ但洋種ハ十六才以上ニ至ルモ妨ナシ

第三　遺傳病ナキモノヲ用フヘシ

第四　惡癖ナキモノヲ用フヘシ

第五　强壯ニシテ骨格善良ナルモノヲ用フヘシ

第六　寸尺ノ制限ハ適宜之ヲ定ムヘシ

## ○第四節　種牛馬貸與規則

十五年二月農商務省第二號達

自今種牛馬貸與候節ハ別紙規則ニ照シ貸與候條此旨相達候事

第一條　種牛馬貸與ノ主義ハ漸次種類ヲ改良シ良畜ノ蕃息ヲ謀ルモノトス

第二條　種牛馬貸與ヲ請求スルニハ其畜養及ヒ蕃息ノ方法等ヲ詳記シ當省ヘ伺出ベシ

第三條　借受及返納ニ係ル一切ノ諸費ハ借主ノ自辨タルヘシ

但當省ノ都合ニ依リ返納セシムル件ハ其産付費ヲ下付スベシ

第四條　貸與中時々主務官吏ヲ派遣シ畜養等ノ實況ヲ視察セシムベシ

第五條　牡牛馬貸與年限牛ハ三ケ年馬ハ四ケ年トシ滿期ニ至リ返納セシムルモノトス

但牛ハ二十四ケ月馬ハ三十六ケ月未滿ノモノヲ貸與セルハ本條年限ニ算入セサルモノトス

第六條　牡牛馬貸與中又ハ滿期ノ際其同種類ノ異族（例ヘハ短角種牛ニテ其血統ノ別異ナルモノ）ハ甲乙借主亦談ノ上交換貸與ヲ請願スル件ハ之ヲ許可シ其旨農務局ヘ通知スベシ

第七條　貸與牝牛馬ヨリ生産セシ犢駒ハ初産ヨリ交互（第一初産一頭ヲ納メ第二産ハ借主專領シ第三産又一頭ヲ納ムル如キ交互輪次ニ受領スルヲ云フ）ニ左ノ頭數ヲ上納セシムベシ

牛　七才以下ノモノ　犢　三　頭
　　七才以上ノモノ　仝　二　頭
　　八才以下ノモノ　駒　二　頭

馬　八才以上ノモノ　仝　一　頭

第八條　前條上納ニ充ツヘキ犢駒ハ生産後牛ハ十二ケ月馬ハ二十ケ月未滿ノモノヲ貸與セルハ本條



## ◎静岡縣伺

明治十八年二月二日

種牛馬取締方法適宜相設可屆出旨本年御省第壹號ヲ以テ御達相成候處縣下ニ於テ是迄牛馬トモ雜種ヲ以テ種牡ニ供シ候者有之右等ノ者ハ該御達中第一第二項本文ニ據リ取扱可然哉

○農商務省指令伺之通

十八年二月十八日

## ◎三重縣伺

明治十八年二月廿三日

本年御省第壹號ヲ以テ種牡牛馬取締方御達相成候處但書ニ一箇年分取經メ翌年二月十五日限農務局ヘ報告スヘシト有之右ハ一箇年中半年間種牡牛馬ヲ所有シ

後之ヲ賣却セシモノヽ如キモ壹頭ト取調報告スヘキ筋ニ有之候乎果シテ然ラハ同管下ニ於テ一箇年中甲乙所有主ヲ變換セシモノヽ如キ之ヲ貳頭ニ可取調儀ニ有之候哉

○農商務省指令 十八年三月七日

伺之趣種畜ノ甲乙轉賣ニ係ルモノハ最後ノ所有ニ歸スルモノヲ以テ報告スヘシ

月以外ニ於テスヘシ最其牽付入費ハ下ケ渡スモノトス

但本文期限内ト雖ヒ上納ヲ命スルヿモアルヘシ

第九條 第七條ニ掲クル犢駒ノ頭數ヲ上納シ了ルモノハ其母牛馬ハ借主ニ下與スルモノトス

第十條 第七條ニ掲クル犢駒其管内ニ貸與ノ見込アル時ハ其方法ヲ監査シ不都合ナキニ於テハ本則ニ準據シ貸與ノ上農務局ヘ通知スヘシ

第十一條 交尾景況ハ毎年十二月限リ別紙甲號雛形ニ據リ農務局ヘ報告スヘシ

第十二條 分娩ハ其都度別紙乙號雛形ニ據リ農務局ヘ報告スヘシ

第十三條 死亡ハ別紙丙號雛形ニ據リ其景況ヲ詳記シ獸醫ノ診斷書ヲ添其都度農務局ヘ報告スヘシ

第十四條 傳染病ヲ除クノ外斃牛馬ハ其借主ニテ適宜處分スヘシ

第十五條 疾病ノ徵アル時ハ速ニ治療ノ手當ヲ爲シ其都度農務局ヘ報告スヘシ

但傳染病ニ係ルモノハ急報スヘシ

第十六條 傳染病流行ノ際ハ種牛馬及上納犢駒共其牽付ヲ見合スヘシ



第十七條 畜養ヲ粗略ニシ又ハ交尾度數ヲ超過シ若シクハ本則ニ違背スル時ハ直ニ返納セシムヘシ

第十八條 貸與牛馬失跡シ若シクハ畜養交尾等不注意ヨリ斃死セシムル時ハ借主ヨリ相當價ヲ辨償セシムヘシ

○甲號 拜借牛馬 自明治何年一月至仝年十二月 交尾報告

府縣名

牡牛馬之部（牛ト馬ハ欄格ヲ區別スヘシ以下倣之）

| 種類 | 名號 | 年齢 | 毛色 | 產地 | 拜借年月日 | 拜借畜養地名 | 交尾頭數 | 交尾度數 | 事面 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何々種 | 何々 | 何才 | 何毛 | 何々 | 何年何月何日 | 何々 | 何頭 | 何回 | 拜借主ノ姓名ヲ記シ或ハ貸與規則ニ據リ其借主ヨリ上納セシモノ等明記スベシ |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

牝牛馬之部

| 種類 | 名號 | 年齢 | 毛色 | 產地 | 拜借畜養年月日 | 拜借畜養地名 | 交尾度數 | 事由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何々種 | 何才 | 何才 | 何毛 | 何々 | 何年何月何日 | 何々 | 何回 | 前同斷及種牡ノ種類毛色名號等ヲ明記スヘシ |
| | | | | | | | | |

右之通ニ有之候也

年月日　　府縣名印

農務局御中

○乙號　產出犢駒報告

| 種類 | 名號 | 牡牝區別 | 毛色 | 產地 | 生產年月日 | 父種類名號 | 母種類名號 | 事由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何々 | 何々 | 牡或ハ牝 | 何毛 | 何々 | 何年何月何日 | 何々種何々號 | 何々種何々號 | 體格瓦否ノ大略ヲ記スベシ |
| | | | | | | | | |

右之通リニ有之候也

年月日　　府縣名

農務局御中

○丙號　牛馬死亡報告

| 種類 | 牡牝ノ區別 | 年齢 | 毛色 | 名號 | 產地 | 拜借畜養年月日 | 畜養地名 | 事由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 何々種 | 牡或ハ牝 | 何才 | 何毛 | 何々 | 何々 | 何年何月何日 | 何々 | 何年何月何日何病ヲ發シ何月何日斃死 |
| | | | | | | | | |

右之通ニ有之候也

年月日　　府縣名印

農務局御中

## ●第三章　農商

### ○第一節　農商務通信規則

明治十六年十二月農商務省第二十一號達

農商工山林ノ盛衰消長ヲ詳悉スヘキ爲メ生產消費ノ數量ヲ調査スルハ勸業ノ要務ナルヲ以テ遍ク全國通信ノ氣脈ヲ連絡スヘキ農商務通信規則左之通相定候條右ニ準シ取扱フヘシ此旨相達候事

●岐阜縣伺

明治十七年四月七日

客年十二月御省第貳拾壹號ヲ以テ農商務通信規

則御達相成已ニ農事通信事項ハ主務局ヨリ通牒有之候ニ付自今該規則ニ準據取扱可申ハ勿論ニ候處從來成規或ハ主務局ノ請求ニ依リ調整致來候普通特有物産表牧牛馬表被害段別表桑茶段別表等ノ如キ今般通牒ノ樣式ト大同小異ニシテ重複ノ姿ニ相成候者有之右ハ兩樣ノ取調致候トキハ不容易手數ヲ要シ何分行屆兼候間成規或ハ照會ニ由リ調整致來候分ハ總テ廢止セラレ今度御達ノ規則ニ準シ一々調整候樣仕度此段相伺候條至急何分ノ御指揮有之度候也

○農商務省指令伺之通

十七年四月二十九日

◉福岡縣伺

明治十七年一月廿八日

明治十六年十二月御省第貳拾壹號ヲ以テ農商務通信規則ヲ被制定已ニ農事通信事項幷樣式主務局ヨリ通牒有之候ニ付テハ自今該規則ニ準シ實施致候儀勿論ニ有之候處曾テ成規或ハ農商務局ノ求メニヨリ調製致來候普通特有物産表家畜表疫牛表寒暖表被害反別調桑茶反別調等ノ如キハ今度主務局ヨリ通牒

但本文ニ關ス通信事項ハ更ニ主務局ヨリ通牒スヘシ

## 農商務通信規則

第一條　農商工山林ニ關スル事件ハ此規則ニ據リ府縣廳及ヒ通信員ヨリ主務局ニ報告シ主務局ハ府縣廳又ハ通信員ニ諮問應答スヘシ

第二條　通信ヲ分チテ定期報臨時報ノ二種トス

第三條　定期報トハ通信事件中特ニ報告期限ヲ定メタルモノヲ云フ

第四條　臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セス臨時報告ヲ要スヘキモノヲ云フ

但非常ノ變異ニ係ル場合ハ電報ヲ用フヘシ

第五條　報告上物質形狀等文辭ニ盡シ難キモノハ圖書、寫眞、雛形若クハ見本等ヲ添ヘ數量比例歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附スヘシ

第六條　報告ハ可成平易ノ文字ヲ用ヰ又數量歩合等ニシテ地方慣用ノ稱呼アルモノ及ヒ方言等ハ解說ヲ加フヘシ

第七條　府縣廳又ハ通信員ニ於テ質問ヲ要スル事件アルトキハ其事由ヲ詳記シテ主務局ニ質問スヘシ

第八條　定期及ヒ臨時報ノ外農商工山林ニ關シ尙ホ報告ヲ要スヘキ事項左ノ如シ

一　地方廳ノ調査書、會社、協會等ノ規則並ニ報告書又ハ官民ノ著述、編纂、飜譯及ヒ報告書等ハ可成現本ヲ送致スヘシ但著譯書等冊數浩瀚ナルモノハ題名、目錄及ヒ其要旨ノミヲ報告スルモ妨ケナシ

二　有功者ノ事蹟及ヒ履歷等ハ古今ニ拘ハラス調査報告スヘシ

三　改良、發明、試驗ノ成蹟及ヒ該事業ニ關スル各地方從來ノ習慣、新設ノ方法等ハ可成周密ニ報告スヘシ

四　博覽會、共進會、集談會等ノ開設アルトキハ其開閉期日及ヒ出品、談話ノ景況等ヲ報告スヘシ

第九條　第一條第七條ニ依リ通信員ト主務局ノ間ニ於テ文書ノ往復ヲ爲シタルトキハ其寫ヲ添ヘ通信員ヨリ直チニ府縣廳ヘ申報スヘシ

第十條　通信員ハ各府縣ニ於テ適宜相設ケ族籍姓名住所ヲ記シ當省ヘ屆出ヘシ

ノ樣式ト大同小異ニシテ重複ノ姿ニ相成候モノ有之右ハ兩樣ノ取調致候ハヽ不容易手數ニ亘リ何分行屆兼候條從來成規或ハ照會ニヨリ調製候分ハ渾テ之ヲ廢セラレ一々今度御達ノ規則ニ準據候樣致度至急何分ノ御指令有之度此段相伺候也

○農商務省指令　伺之通　十七年二月廿一日

●山形縣伺　明治十九年四月四日

客年十二月御省第廿貳號ヲ以テ農商務通信規則ヲ被達尋テ右規則ニ基キ農務局ヘ通信スヘキ事項ハ農事通信事項幷表式ニ有之候旨農務局ヨリ通牒有之候ニ付テハ自今該規則ニ準シ實行可致ハ勿論之儀ニ候處右通信ノ樣式ハ曾テ成規或ハ主務局ノ照會ニ由リ調整致來候普通特有物產表家畜表被害反別調製茶繭絲產額表ト對照較視スルニ大同小異或ハ一層精密ニシテ重複ノ姿ニ相成候モノ有之右ハ乍兩取調致候ハヽ民間不容易手數ニ渉リ候ノミナラス何分行屆兼候事情ニ候條從來成規或ハ照會ニ依リ調製申報致來候分ハ都テ之ヲ廢シ一々今般御達ノ規則ニ準シ候樣致可然哉此段相伺候也

○農商務省指令　伺之通　十七年四月廿二日

●靜岡縣伺　明治十六年七月十日

當縣ニ於テ從前勸業委員ヲ設置シ其給料旅費ハ地方稅ヲ以テ支辨シ既ニ十六年度ニ係ル給料旅費共本年通常縣會ニ於テ可決致シ居候得共本年五月第十二號ヲ以テ勸業諮問會幷勸業委員設置ノ儀布達ニ付テハ右勸業委員ハ廢止セサルヲ得サル儀ニ候哉又ハ元來法律規則ニ據リ之ヲ設置シタル儀ニアラサルヲ以適宜從前ノ通存置スルモ妨ケ無之候哉目下差掛候儀有之候間電報ニテ御指令相成度此段相伺候也

○農商務省指令（電報）　勸業委員ノ義ハ前段伺之通　十六年七月十七日

●滋賀縣伺　明治十六年八月（日未詳）

今般太政官第拾三號布達ニヨリ勸業委員設置致度候ニ付テハ右委員ノ撰擧方法幷處務ノ順序等ハ第五條ノ明文ニヨリ區町村會又ハ聯合區町村ニ於テ評定セシムヘキハ勿論ニ候得共地方ニ於テハ未タ該會ノ開設無之町村モ不少候ニ付爲メニ或ハ多少ノ歲月ヲ費シ候町村モ出來可申哉ニ被相考候然ルニ該委員ノ儀ハ定期臨時ノ通信其他農工商統計等ヲ處辨セシムルモノニヨリ假令ハ拾中八九ノモノヲ整頓スルモ他一二町村ノ爲メ其滿足ヲ欠クカ如キハ頗ル遺憾ノ事ニ有之旁以テ右等ノ町村ニ限リ假リニ其町村ノ協議ヲ以テ委員ヲ撰定シ不取敢前條ノ欠漏ヲ處辨セシメ置而シテ漸次一定ノ成法ニ相改サセ候樣致度右ハ地方ノ實際ニ於テ一時不得止ノ處分ニシテ目下學務衞生ノ兩委員ノ如キモ同樣便宜爲取計置候儀ニ有之候條當分ノ內此段御聽置相成度右相伺候至急御指揮相成度候也

○農商務省指令　伺之通　十六年九月十七日

伺之趣區町村會又ハ聯合區町村會ノ設ケアラサルトキハ第五條ノ手續ヲ爲スヘキタメ之ヲ開カシムヘシ

●靜岡縣伺　明治十六年七月五日

本年五月太政官第十三號ヲ以テ勸業諮問會並勸業委員設置之儀布達相成候處其第五條ニ勸業委員ノ撰擧方法及處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シト有之右ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ評定ノ上出願候モノニシテ不都合無之ト認ムルトキハ直チニ裁可ヲ與ヘ可然樣思考候得共其第七條末文ニ此場合ニハ農商務卿ニ稟議シ認可ヲ請クヘシト有リ之ニ因テ之ヲ見レハ前陳ノ場合ニ於テ誘導ヲ俟タス人民ヨリ出願候者ハ經伺ヲ要セス直チニ裁可シ第七條ニ據リ誘導設置セシムル場合ニ限リ可伺出儀ト相心得可然哉且人員撰擧方法處務ノ順序等ハ

第五條ノ明文ニ據リ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ評定セシムヘキハ勿論ニ候得共設置ノ際該會ノ開設無之町村ニ於テハ人員撰舉者其町村ニ於テ之ヲ公撰セシメ處務ノ順序ハ適宜之ヲ協議セシメ可然右兩項何分ノ御指令有之度此段相伺候也

○農商務省指令　十六年七月十八日

伺之趣

前項伺之通

後項區町村會又ハ聯合區町村會ノ設ケアラサル片ハ第五條ノ手續ヲ爲スヘキタメ之ヲ開カシムヘシ

●東京府伺

明治十八年九月十八日

今般御省第三十三號ヲ以テ御達相成候農事巡回教師設置條項第五條ニ乙部農事巡回教師ハ地方官ヲシテ中略選ハシメ云々ト有之候所右ハ何レノ場合ニ於テ選舉可致哉明文無之然ルニ第三十四號ヲ以テ十八年度ニ於テ巡回スヘキ縣名等御指名相成候ニ付テハ自今共府縣ヘ順次御指名可相成儀ト被存候果シテ然ラハ其際ニ於テ選定取計可然哉且第八條ニ據リ乙部教師巡回期節及區劃相定メ候上ハ都度上申シ御省ヨリシテ教師ニ御示シ可相成儀ニ候哉將タ府縣限リ適宜巡回可爲致儀ニ候哉

## ○第二節　農事巡回教師設置

十八年八月農商務省第三十三號達

第一條　農事巡回教師ハ普通農事及養蠶製絲製茶糖業害蟲牧畜ノ業務毎ニ之ヲ設ク

但最初ハ養蠶製絲製茶及ヒ普通農事トシ其他ハ漸次着手スルモノトス

第二條　農事巡回教師ハ甲乙二部ニ分チ甲部ハ全國ヲ巡廻シ乙部ハ一府縣内ヲ巡廻スルモノトス

第三條　甲部農事巡廻教師ハ當省ヨリ派出シ農務局員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條　甲部農事巡廻教師ノ巡廻ハ六箇月以内トシ從來定ムル所ノ農區ニ據リ巡廻セシムルモノトス

第五條　乙部農事巡廻教師ハ地方官ヲシテ其管内實業者中老練ニシテ名望アリ兼テ學理ニ通スルモノヲ選ハシメ當省ヨリ之ヲ命スルモノトス

但選定ノ上ハ本人履歴書ヲ添ヘ當省ヘ申出ヘシ

第六條　乙部農事巡廻教師ハ任期中取扱判任官ニ準シ無給トス

但任免ノ節旅費ヲ給セス

第七條　乙部農事巡廻教師ハ巡廻中手當（旅費電信郵便筆墨料等ニ充ルモノトス）ヲ當省ヨリ支給スヘシ

但金額ハ毎年別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條　乙部農事巡廻教師ノ巡廻期節及其區劃ハ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第九條　乙部農事巡廻教師ハ其復命報告書ヲ作リ地方官ヲ經由シテ當省ヘ差出スヘシ

第十條　乙部農事巡廻教師ハ左ノ如ク心得ヘシ

乙部農事巡廻教師心得

○農商務省指令

十八年九月廿五日

伺之趣左之通可相心得事

一乙部農事巡回教師ヲ設置スヘキ地方ハ其時々可相達候條其際ニ於テ選定スヘシ

一巡回期節及ヒ區劃ハ地方官ニ於テ直ニ該教師ヘ示シ巡回セシムヘシ

第一項　農事巡廻教師ハ各其職務ニ就テ實業者ノ知識ヲ開キ拙キモノヲ巧ニシ衰ヘタルヲ盛ンニセンカ爲メ專ラ誘導ノ力ヲ盡スヘキモノナレハ人ニ接スル温柔懇切ナルヘシ決シテ倨傲ノ擧動アラサルヤウ注意スヘシ

第二項　巡廻中ハ其職務ニ就テ見聞スル事項ニ注意シ若シ有害ト認ムルモノアルトキハ細ニ其理由ヲ述ヘテ説諭ヲナスヘシ

第三項　巡廻中ハ其地方ノ勸業主務者即チ勸業課郡役所又ハ勸業委員ト協議シ實業者ヲ招キ集メテ談話シ又ハ實業者ノ質問ヲ受ケテ答辨ヲナスヘシ

第四項　巡廻先ノ地ニ農談會集談會若クハ諮問會等アルトキハ其席ニ臨ミテ談話シ又ハ質問ニ答辨スヘシ

第五項　質問中答辨シ難キ事アルトキハ其理由ヲ詳カニ記載シテ農務局ニ出シ説明ヲ乞フヘシ

第六項　有益ノ發明又ハ衆人ノ摸範タルヘキ事業ヲ起セシモノアルヲ見聞セシトキハ其旨ヲ報道スヘシ

第七項　巡廻中見聞セシ事ニ就キ意見アルトキハ書取ヲ以テ農商務卿又ハ地方長官ニ申出ルヿヲ得ヘシ

第八項　巡廻中ノ談話筆記其他見聞セシ事項ハ可成精密ニ記載シテ報告書トナシ復命スヘシ

# 第三類　〔銀行證券手形〕

## 第一章　銀行

### ●第一節　日本銀行條例

十五年六月第三十二號布告

○第一條　日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルヿヲ得但シ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スル件ハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル件ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルヿアルヘシ

第三條　日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヿヲ得

第四條　日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルコトヲ得

第五條　日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條　日本銀行ノ株主ト爲ントスル者ハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アル𪜈ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但シ資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條　營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ內幾分ヲ減少シタル𪜈ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ツルマテノ金額ヲ追募スヘシ

第九條　事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ增加ヲ要スル𪜈ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條　純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フ

第二　割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條　日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲スコト

第二　地金銀ノ賣買ヲ爲スコト

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スコト

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲スコト

第五　諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬幷諸證券類ノ保護預リヲ爲スコト

第六　公債証書政府發行ノ手形其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲スコト但シ其金額及ヒ利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外ニ左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルヿヲ得ス

第一　不動產及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スコト

第二　本銀行ノ株券ニ對シ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲スコト

第三　諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四　本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條　政府ノ都合ニ因リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條　日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但シ此銀行券ヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條　日本銀行ハ諸手形及ヒ切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條　日本銀行ハ公債証書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フヿヲ得ヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條　日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スルモノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條　總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條　理事ハ株主總會ニ於テ撰擧シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ケ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰擧シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第廿條　理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條　大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條　日本銀行ハ本支店出張所及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之レヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條　日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作リ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルトキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條　政府ハ日本銀行諸般ノ義務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スルヿハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條　此條例ヲ改正增削スルトキハ其施行ノ日ヨリ三ケ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

## ○第二節　國立銀行條例

九年八月第百六號布告

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債証書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ

以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

## ○第一章　銀行創立ノ方法創立証書銀行定欵ノ差出方及開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條　大藏卿ハ此條例ヲ遵奉シテ創立スヘキ銀行ヨリ發行スル紙幣ノ員額ヲ制限スルコアルヘシ（十年十二月太政官第八十三號ヲ以テ追加）

此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス（外國人ヲ除クノ外）五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立証書及ヒ銀行定欵ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條　此條例ヲ遵奉シテ銀行ヲ創立セント欲スル者アル時大藏卿ハ其地方ノ便否ヲ審案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セス又ハ其資本金額ヲ減少スルコアルヘシ（十年十二月太政官第八十三號ヲ以テ追加ス）

右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立証書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立証書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受クルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ベシ而シテ其創立証書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

第一　銀行ノ名號

但シ此名號ハ紙幣頭承認ノ許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二　銀行ノ本店及ヒ支店（若シ之アラハ）ヲ置クヘキ場所

第三　銀行資本金額及ヒ株數

第四　銀行營業ノ年限

第五　株主ノ姓名住所屬族職業（若シ之アラハ）及ヒ其引受タル株式ノ番號箇數

第六　此創立証書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ミ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル旨

第三條　右創立証書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケタルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立証書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立証書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條　右創立証書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ

紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヿヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ增減及ヒ本店轉移或ハ支店開設等ノ如キ是レナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立証書中ニ記載セシ箇條ト同ク確守スヘシ且ツ右ノ箇條ハ其創立証書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但シ右ノ外創立証書中ノ箇條ヲ更正スルヿヲ得サルヘシ

第五條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立証書ニ必ス銀行定欵ヲ添フヘシ而シテ此定欵ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立証書ト同樣株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定欵ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定欵中ニ掲ケタル諸欵ヲ更正增補シ及ヒ之ヲ廢止スルヿヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正增補シタル箇條ハ最初右定欵中ニ掲載セシ箇條ト同ク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定欵ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

明治六年八月廿日三百四號布告

九年百六號布告ニ依テ消ル

東京第一國立銀行ニ於テ紙幣發行ヲ許シ海關稅公債證書ノ利息ヲ除クノ外涯テ正金同樣取引セシム

同上　明治六年十月十七日三百四號布告

同上　明治六年十一月十四日三百七十八號布告

九年百六號布告ヲ以テ改正ス　明治六年十二月廿日四百十四號布告

紙幣頭ヘ可差出報告條中

第七條　創立証書幷ニ銀行定欵ハ本紙壹通正寫貳通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立証書ハ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ銀行定欵ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第八條　紙幣頭ハ右創立証書及ヒ銀行定欵ヲ領收シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲ爲セシヤ否ヤノ狀實ヲ檢査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非ラザレハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立証書銀行定欵共本紙ハ記錄寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條　銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條　此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀創立證書銀行定欵ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラルヽヲ得ヘシ

第十一條　創立證書、銀行定欵ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續アル

ノ後）各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ附與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

（十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

第十二條　此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルヿヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルヿヲ得ヘシ然レ𪜈紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルヿヲ許サス

第十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟約定保證及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用ヒ社印ヲ鈐スヘシ

但シ報告約定保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人書記方出納方計算方簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定欵中ニ掲載スヘシ

第十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上（內一人ハ頭取）タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一ケ年以上在住シタル者ニ限ルヘシ

第十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ此且條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥印鈐印ヲ受ケタル之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

○第二章　銀行資本金ノ制限公債証書銀行紙幣交收ノ割合幷ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ルヘカラス尤モ人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但時宜ニ依リ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スヿアルヘシ

（明治十一年三月三日第五號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

第十八條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レ𪜈大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルヿアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アル𪜈其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルヿアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依リテハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルヿアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價（時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格）ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ

但公債證書ノ時價低下スル𪜈ハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

第十九條　右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ內國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改ム）

第二十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ

第二十一條　此條例第四十條第四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ增減スルヿアルニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書幷ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ增減スヘシ

第二十二條　（明治十六年五月第十四號布告削除）

第二十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債証書ヲ出納寮ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本ト爲スヘシ

第二十四條　右公債證書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘查ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開キ須ク注意ヲ盡シ詳明ニ之レヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條　此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證

書ハ毎年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照ラシテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ニ差出スヘシ

但右改人出納寮ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條　右公債證書ハ銀行ノ都合ニ依リ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シテ之ヲ交換下付スヘシ

但其引換ヘタル趣並ニ其公債証書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條　右公債証書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

但(十六年五月第十四號布告削除)

○第三章　株式ノ分割資本金入金ノ割合株式沒入株主牒ノ記入株式ノ賣買及ヒ資本金增減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤モ一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓二十五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

第二十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラス總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主ト爲ルヲ許サス

第三十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條　右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル

ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尚ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤モ此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條　右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者在サル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ沒入シ其株ヲ消スヘシ尤モ此消株ニ依リ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スル時ハ頭取取締役等ハ卅日ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

第三十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一　各株主ノ姓名住所屬族職業（若シ之アラハ）

第二　各株主ノ所持セル株式ノ番號箇數

第三　入社ノ年月日

第四　退社ノ年月日

第三十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立証書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ（外國人ヲ除クノ外）爾後其銀行ノ株主タランコヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同ク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條　右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタル時ハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之レヲ其管轄地方管廳ヘ差出シ紙幣頭ヘモ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一ケ年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルコヲ得ヘシ

第三十七條　右株主牒ニ何人ト雖ドモナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條第三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルヿヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一ヶ年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルヿヲ得ヘシ

第三十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルトキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非ラスト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

第四十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ增加スルヿヲ得ヘシ而シテ右增加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ增加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤モ全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其增加証書ヲ差出スヘシ

第四十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ揭クル如ク資本金ヲ增加セシニ依リ公債証書ヲ納メ銀行紙幣ヲ受取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ增加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之レヲ施行スルヲ許サス

第四十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスルトキハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤モ其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクトモ三ヶ月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三ヶ月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日ニ至ラズト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一ヶ月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一　凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金幷ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二　其他期限未滿タリ𪜈凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

第四十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條第四十三條ニ掲ル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少証書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムヿアル𪜈ハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與サルヘシ

## ○第四章　銀行紙幣ノ製造及ヒ種類其通用ノ能力引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

第四十五條　此條例ヲ遵奉ノ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贋摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡ノ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

第四十六條　右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓、貳圓、五圓、拾圓、二十圓、五十圓、百圓、五百圓、ノ八種ト定メ銀行ノ望ミニ應シテ製造下付スヘシ

但五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條　右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トノ發行スルノ旨趣及其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記錄頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號番號ヲ押捺ノ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而ノ銀行ニ於ハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同樣通用スヘシ

但公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用フルヲ許サス

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

第四十九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンヿヲ請求スルモノアル𪜈ハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第五十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲ爲ス者アルニ於テ

ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤モ右引換銀行紙幣ノ種類記號番號金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立合ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立合ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尚ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但右燒捨ノ後チハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章　銀行營業ノ本務公債証書其他ノ賣買並ニ貸付金ノ制限利息ノ制限銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ（引受其ニシ抵當貸シノ別ナク）貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲替ヲ取組ミ又ハ爲換手形約定手形代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務ト爲スヘシ

第五十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本條タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲ爲スヲ得ルト雖モ貸付金預リ金爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニ依リ此等ノ事業ヲ經營セシメ唯公債証書ノ賣買ヲ專ニスルヲ許サス

第五十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲ爲スヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此レ等ノ功ヲ興ス會社ノ株主ト爲ルヲ許サス尤モ左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ

但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一　銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二　滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三　貸金返濟ノ約定日切ト爲リテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ

貸渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四　銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物ト爲リシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒト爲リタルモノカ又ハ之ヲ引取リタルモノ又ハ右質入ノ流込ミト爲リタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條　前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取リ又ハ買取リタル地所物件ハ遲ク𪜈十ケ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リト爲スヘシ

第五十七條（明治十一年十月一日第三十一號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸附金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其制限ニ超過スルモノアル𪜈ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ



第五十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲ爲スヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲ爲スヘカラス又其株ノ買主ト爲リ又ハ其株主ト爲ルヘカラス然レ𪜈貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損失ト爲ルヿアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルヿヲ得ヘシ尤モ其株ハ遲ク𪜈六ケ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少ク𪜈十分ノ二、五（卽チ四分ノ一）ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤モ内十分一ノ員額ハ政府ノ公債証書ヲ實價ヲ以テ債立ルヲ得ヘシ

但此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スル𪜈ハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ增加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ增加スルヿヲ

怠ルトキハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

第六十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲替手形約束手形等ノ仕拂ヲ爲スニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フヿ能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主ヘ返辨スヘシ

## ○第六章　銀行名號ノ掲牌社印ノ書体並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負債所有物ノ明細帳及營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書体ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告諸証書諸手形諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書体ヲ用ウヘシ

第六十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付キ五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タル者知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用ヰシメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約定手形切手証書注文書受取証書受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ヰル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルトキハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形約束手形切手注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サヽルトキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノヽ如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ツルト雖トモ此人苟クモ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱シモノト見做スヘシ

第六十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産（動産不動産ノ別ナク）ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委托其他ニ於ケ

ル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ總アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及質預リ人又ハ受托人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閲ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財産ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラルヽヲ得ヘシ

第六十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店其定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤モ銀行ノ都合ニ依リ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

○第七章　株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

第六十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ毎年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニ在ラス

第六十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ施行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定欵中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヿヲ得ヘシ

第六十九條　凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大体ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲ爲シ後チ十四日以外一ヶ年以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出ノ其承認ヲ受クヘシ

○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スヿヲ怠ルニ於テハ右ノ

日數以後(則チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付キ十圓ヲ越ヘサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ件ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十一條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條第六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正ク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐僞ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ越ヘサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故ラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ件ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此個條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ム件ハ五圓ニ越ヘサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故ラニ之ヲ爲スカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ件ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ檢セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニ依リ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別ナク)檢査セシムルコアルヘシ尤モ右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

第七十四條　右檢査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業体ヲ檢査シ其銀行役員ノ處務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其檢査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第七十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業体ヲ檢査セシムルコアルヘシ但シ其檢査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此檢査ヲ請願セシ株主等ヘ下付スヘシ

第七十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規

定スル所ノ檢査官員ノ檢査ヲ除クノ外他ノ檢査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ檢査スルカ如キハ此限ニ在ラス

第七十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表（成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類）ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印メ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第七十八條　右定例報告計表ノ外紙幣頭尚ホ要用ト思考スルヿアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルヿアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ（郵便遞送日數ヲ除ク）十日以內ニ差出サヽルトキハ十日以外（即チ十一日目ヨリ）ハ一日ニ付五拾圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ第八章及第七十九條左ノ如ク改正ス）

○第八章　利益金分配ノ方法ヲ明カニス

第七十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ毎半季其銀行ノ總勘定ヲ爲シ其總益金ノ內ヨリ諸雜費幷ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金ト爲シ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤モ右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以內ニ（郵便遞送日數ヲ除ク）大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

但慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルヿ六ケ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

第八十條（十六年五月第十四號布告削除）

○第九章　銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルヿ及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明カニス

第八十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勸ムルヿヲ得ヘ

シ尤モ其勤メ方ノ手續ハ爾後大藏卿ノ考案ニ依リ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シ以テ之ニ從事スヘシ

第八十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非サレハ內外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行（又ハ交接所等）ト雖モ凡海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルヿヲ得サルヘシ

## ○第十章　銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負債ノ事ヲ明ニス

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改ム）

第八十三條　國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムル件ハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルヿアルヘシ

第八十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルヿアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムル件ハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ窃掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ證書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲ爲シ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲ爲シ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿册計表報告書其他ノ要書ニ詐譌ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺瞞シ又ハ其銀行ノ役員或ハ故サラニ撿査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受ク可カラス又其銀行ヨリ借財ヲ爲ス者ノ爲メ其証人又ハ受人ト爲ルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲ爲シ又ハ証人受人ト爲リ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アル件ハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返濟スヘシ

第八十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又

ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章　紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣同樣ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲ爲シ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字繪圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

第九十條　右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用フル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用フル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲替手形約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切拔キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノヿヲ爲スヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲ爲サシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルトキハ其裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官員ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

（明治十六年五月第十四號布告ヲ以テ第十二章及第九十三條第九十四條ヲ改正シ又第九十二條ヲ削除ス）

○第十二章　官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ沒入及紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條　削除

第九十三條　國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルヿアルヘシ

第一　國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戻シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スル件

第二　國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡スノ能ハサル証據アル件

第三　國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スル件

第九十四條　前條ニ記載スル事實アリト認ムル件ハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條　前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸証類又ハ抵當物地所等ヲ他人ヘ讓リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ讓リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲ爲スコアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條　紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ沒入スヘキ旨ヲ（右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ）申渡シ其公債証書ヲ取上クヘシ

第九十七條　右諸般ノ手續アリシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ（十六年五月第十四號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）

第九十八條　此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ沒入シタル公債証書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債証書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アル件ハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資產ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アル件ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第九十九條　此條例第九十六條ニ揭クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲ爲スニ於テハ紙幣頭ハ卽チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資產等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立テタル上ニテ其裁判所（又ハ府縣ノ聽斷主任官員）ニ謀リ貸金類及ヒ